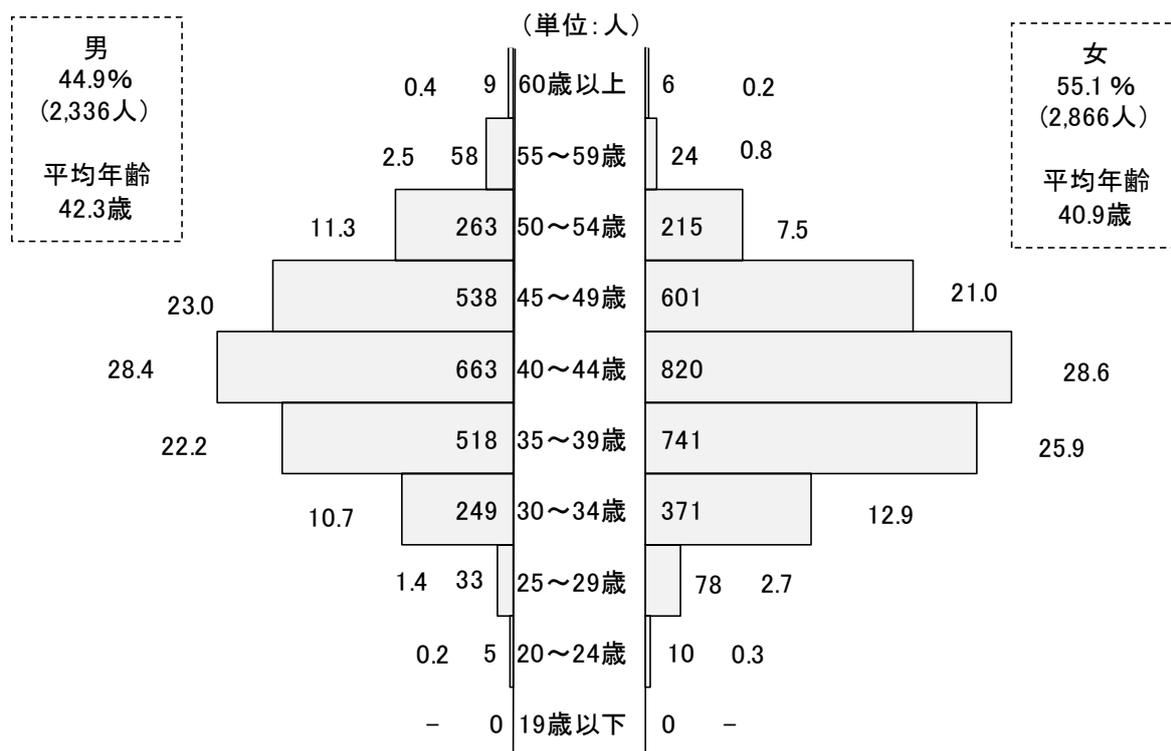


第3部 子育てに関する実態と意識

本章では、小学生までの子供を養育する両親世帯 4,800 世帯と 20 歳未満の子供を養育するひとり親世帯 1,200 世帯の子供の父母（養育者を含む。）のうち、回答のあった 5,202 人の状況と意識について述べる。

○ 回答者の性・年齢階級

回答者の平均年齢は、男性が 42.3 歳、女性が 40.9 歳となっている。



第1章 就労について

1 就労の状況

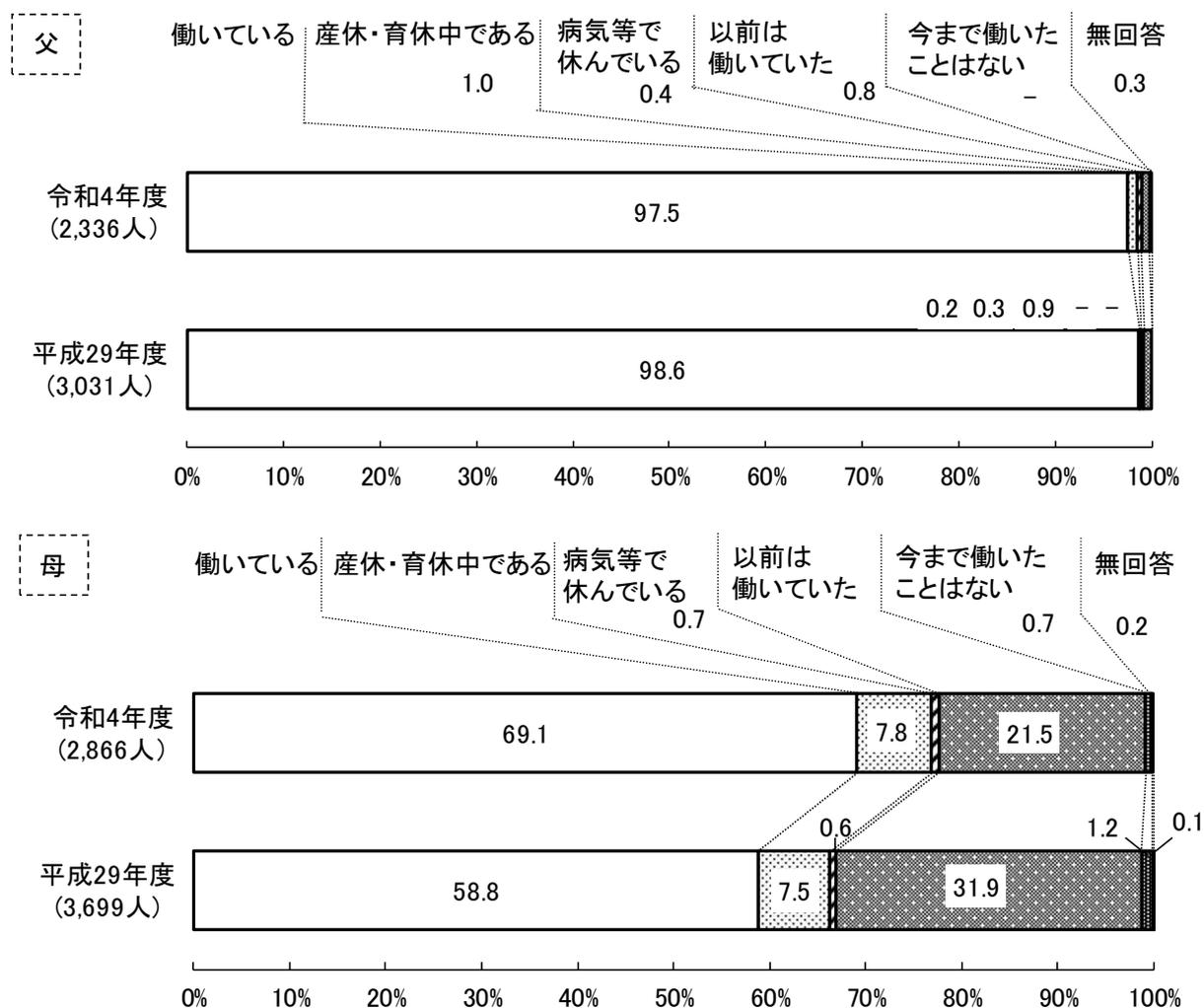
(1) 就労の状況－平成29年度の調査との比較

母の「働いている」割合は約7割

対象者全員に就労の状況を聞いたところ、「働いている」の割合は、父が97.5%、母は69.1%となっている。また、母は、「産休・育休中である」の割合が7.8%、「以前は働いていた」の割合は21.5%となっている。

29年度調査と比較すると、母の「働いている」の割合は10.3ポイント増加している。また、父の「産休・育休中である」の割合は0.8ポイント増加し、1.0%となっている。(図Ⅲ-1-1)

図Ⅲ-1-1 就労の状況－29年度調査との比較



(2) 就労の状況－性・年齢階級別

母の「働いている」割合は、「40～44歳」以上の階級では、いずれも7割超

就労の状況を性・年齢階級別にみると、父の「働いている」割合は、全ての階級で90%以上となっている（92.5%～98.6%）。

母の「働いている」割合は、「40～44歳」以上の各階級では、いずれも70%以上となっている（73.3%～93.3%）。（表Ⅲ-1-1）

表Ⅲ-1-1 就労の状況－性・年齢階級別

	総数	働いている	働いていない	ある 産休・ 育休中 で	いる 病気等 で休ん で	以前は 働いて いた	は 今 まで 働 いた こ と な い	無 回 答
総数	100.0 (5,202)	81.9	17.9	4.7	0.6	12.2	0.4	0.1
父	100.0 (2,336)	97.5	2.2	1.0	0.4	0.8	-	0.3
29歳以下	100.0 (38)	<u>97.4</u>	2.6	-	-	2.6	-	-
30～34歳	100.0 (249)	<u>96.0</u>	3.6	1.6	0.8	1.2	-	0.4
35～39歳	100.0 (518)	<u>98.6</u>	1.4	0.8	-	0.6	-	-
40～44歳	100.0 (663)	<u>98.2</u>	1.2	0.6	0.3	0.3	-	0.6
45～49歳	100.0 (538)	<u>96.8</u>	3.0	1.5	0.7	0.7	-	0.2
50～54歳	100.0 (263)	<u>97.7</u>	2.3	0.8	0.4	1.1	-	-
55歳以上	100.0 (67)	<u>92.5</u>	7.5	1.5	1.5	4.5	-	-
母	100.0 (2,866)	69.1	30.7	7.8	0.7	21.5	0.7	0.2
29歳以下	100.0 (88)	44.3	55.7	30.7	-	25.0	-	-
30～34歳	100.0 (371)	54.2	45.6	23.5	0.3	20.8	1.1	0.3
35～39歳	100.0 (741)	66.4	33.5	10.4	0.5	21.7	0.8	0.1
40～44歳	100.0 (820)	<u>73.3</u>	26.7	3.4	0.7	21.9	0.7	-
45～49歳	100.0 (601)	<u>75.5</u>	24.0	0.7	1.2	21.6	0.5	0.5
50～54歳	100.0 (215)	<u>77.2</u>	22.3	-	0.5	21.9	-	0.5
55歳以上	100.0 (30)	<u>93.3</u>	6.7	-	3.4	3.3	-	-

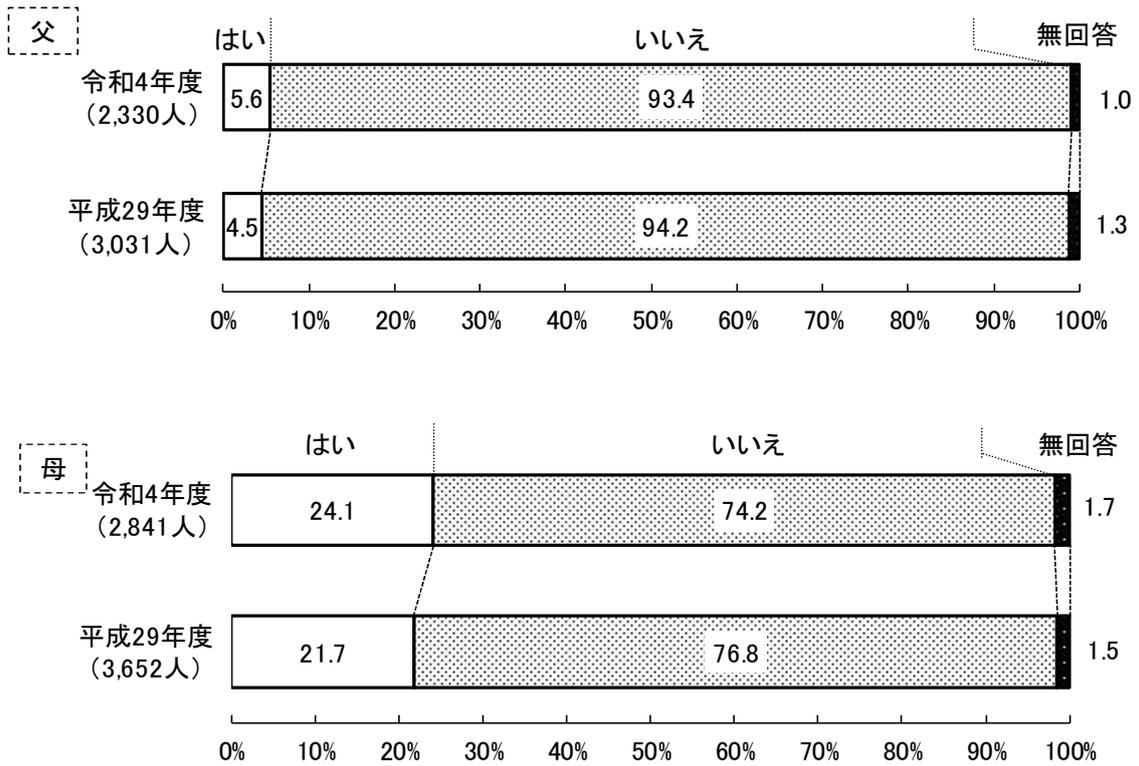
2 子育てを理由とした転職の有無

(1) 子育てを理由とした転職の有無－29年度調査との比較

「ある」の割合は、母が2割超

就労状況で「今まで働いたことはない」と回答した父母と「無回答」を除いた父母（5,171人）に子育てを理由として転職したことがあるか聞いたところ、「ある」の割合は、父が5.6%、母は24.1%となっている。（図Ⅲ-1-2）

図Ⅲ-1-2 子育てを理由とした転職の有無－29年度調査との比較



(2) 子育てを理由とした転職の有無一性・年齢階級別

母の「はい」の割合は、階級が上がるにつれ高くなっている

子育てを理由とした転職の有無を性・年齢階級別にみると、父は「30～34歳以下」で「はい」の割合が最も高く8.1%となっている。

母の「はい」の割合は、階級が上がるにつれ高くなっており、「50歳以上」では「はい」の割合が最も高く32.4%となっている。(表Ⅲ-1-2)

表Ⅲ-1-2 子育てを理由とした転職の有無一性・年齢階級別

	総数	はい	いいえ	無回答
総数	100.0 (5,171)	15.7	82.9	1.4
父	100.0 (2,330)	5.6	93.4	1.0
29歳以下	100.0 (38)	5.3	94.7	-
30～34歳	100.0 (248)	<u>8.1</u>	91.5	0.4
35～39歳	100.0 (518)	6.4	92.5	1.2
40～44歳	100.0 (659)	6.1	93.0	0.9
45～49歳	100.0 (537)	4.8	94.1	1.1
50歳以上	100.0 (330)	3.6	95.2	1.2
母	100.0 (2,841)	<u>24.1</u>	74.2	1.7
29歳以下	100.0 (88)	<u>13.6</u>	84.1	2.3
30～34歳	100.0 (366)	<u>17.2</u>	82.0	0.8
35～39歳	100.0 (734)	<u>21.8</u>	76.6	1.6
40～44歳	100.0 (814)	<u>23.4</u>	74.3	2.3
45～49歳	100.0 (595)	<u>30.1</u>	68.6	1.3
50歳以上	100.0 (244)	<u>32.4</u>	65.6	2.0

(3) 子育てを理由とした転職の有無一世帯類型（母子・父子世帯）別

「はい」の割合は、両親世帯が1割超、ひとり親世帯は3割超

子育てを理由とした転職の有無を世帯類型（母子・父子世帯）別にみると、「はい」の割合は、ひとり親世帯が37.9%、両親世帯は13.7%で、ひとり親世帯の方が24.2ポイント高くなっている。

また、「はい」の割合は、母子世帯が40.0%、父子世帯は14.3%で、母子世帯の方が25.7ポイント高くなっている。（表Ⅲ-1-3）

表Ⅲ-1-3 子育てを理由とした転職の有無一世帯類型（母子・父子世帯）別

	総数	はい	いいえ	無回答
総数	100.0 (5,171)	13.9	84.7	1.4
両親世帯	100.0 (4,736)	13.7	84.9	1.4
ひとり親世帯	100.0 (435)	37.9	60.7	1.4
母子世帯	100.0 (400)	40.0	59.0	1.0
父子世帯	100.0 (35)	14.3	80.0	5.7

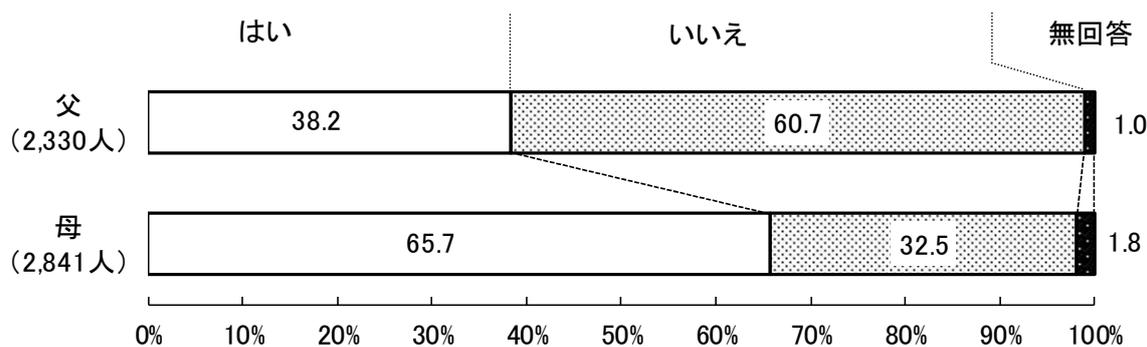
3 勤務時間の調整の有無

(1) 勤務時間の調整が必要だった経験（予定も含む）の有無

「はい」の割合は、父が約4割、母が6割超

就労状況で「今まで働いたことはない」と回答した父母と「無回答」を除いた父母（5,171人）に、子育てを理由に、勤務時間の調整が必要だった経験（予定も含む）があるかを聞いたところ、「ある」の割合は、父が38.2%、母は65.7%である。（図Ⅲ-1-3）

図Ⅲ-1-3 勤務時間の調整が必要だった経験（予定も含む）の有無



(2) 勤務時間の調整は十分できたか及びできなかった理由

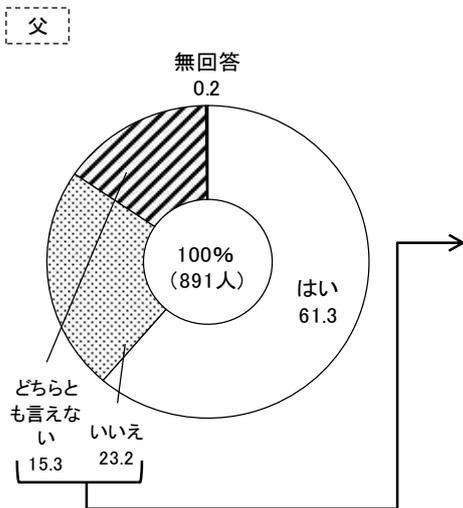
勤務時間の調整が十分にできた（できる）人は父母とも約6割

勤務時間の調整が必要だった経験（予定も含む）がある父母（2,758人）に、調整は十分できた（できる）と思うか聞いたところ、父母ともに「はい」の割合が最も高く、父が61.3%、母は59.0%となっている。

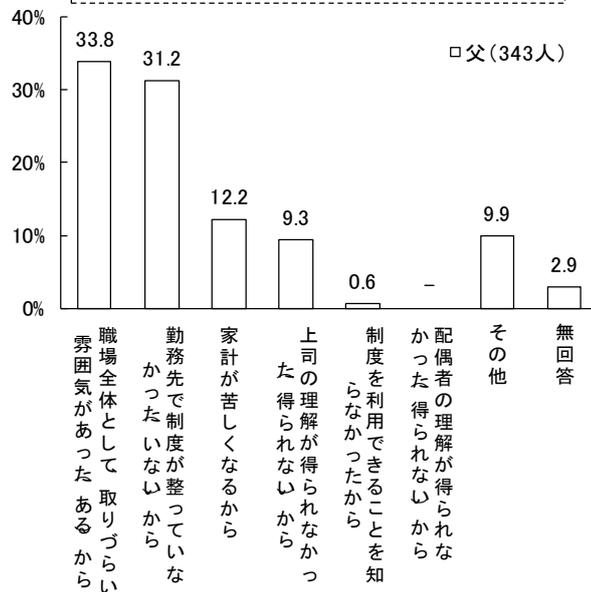
また、「いいえ」又は「どちらとも言えない」と回答した人（1,081人）に、その理由を聞いたところ、父母ともに「職場全体として、取りづらい雰囲気があった（ある）から」の割合が最も高く、父が33.8%、母は28.2%となっており、次いで「勤務先で制度が整っていなかった（いない）から」で、父が31.2%、母は27.4%となっている。（図Ⅲ-1-4）

図Ⅲ-1-4 勤務時間の調整は十分できたか及びできなかった理由

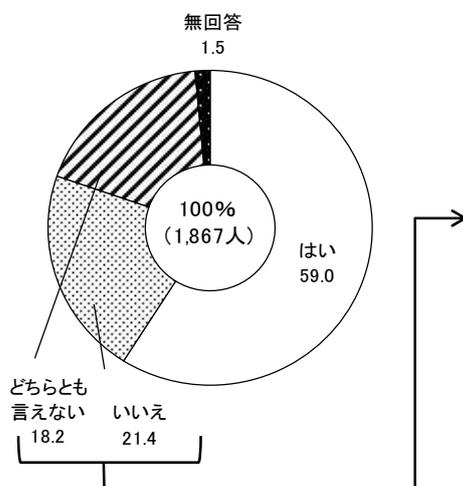
勤務時間の調整は十分か



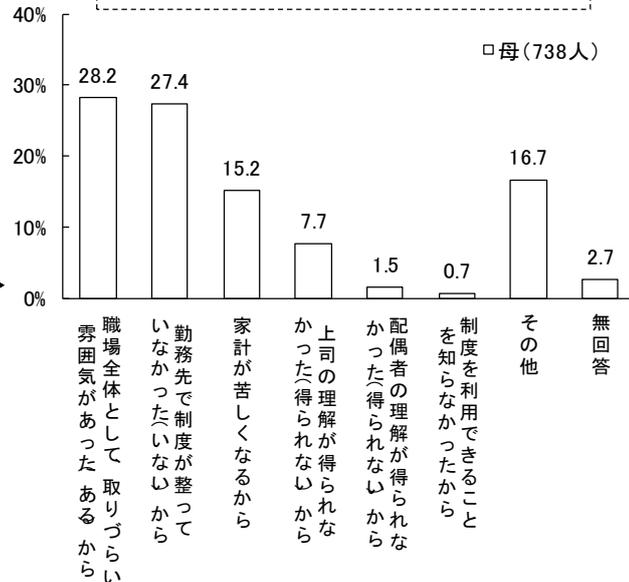
勤務時間の調整が十分にできなかった理由



母



勤務時間の調整が十分にできなかった理由



4 仕事をやめた理由

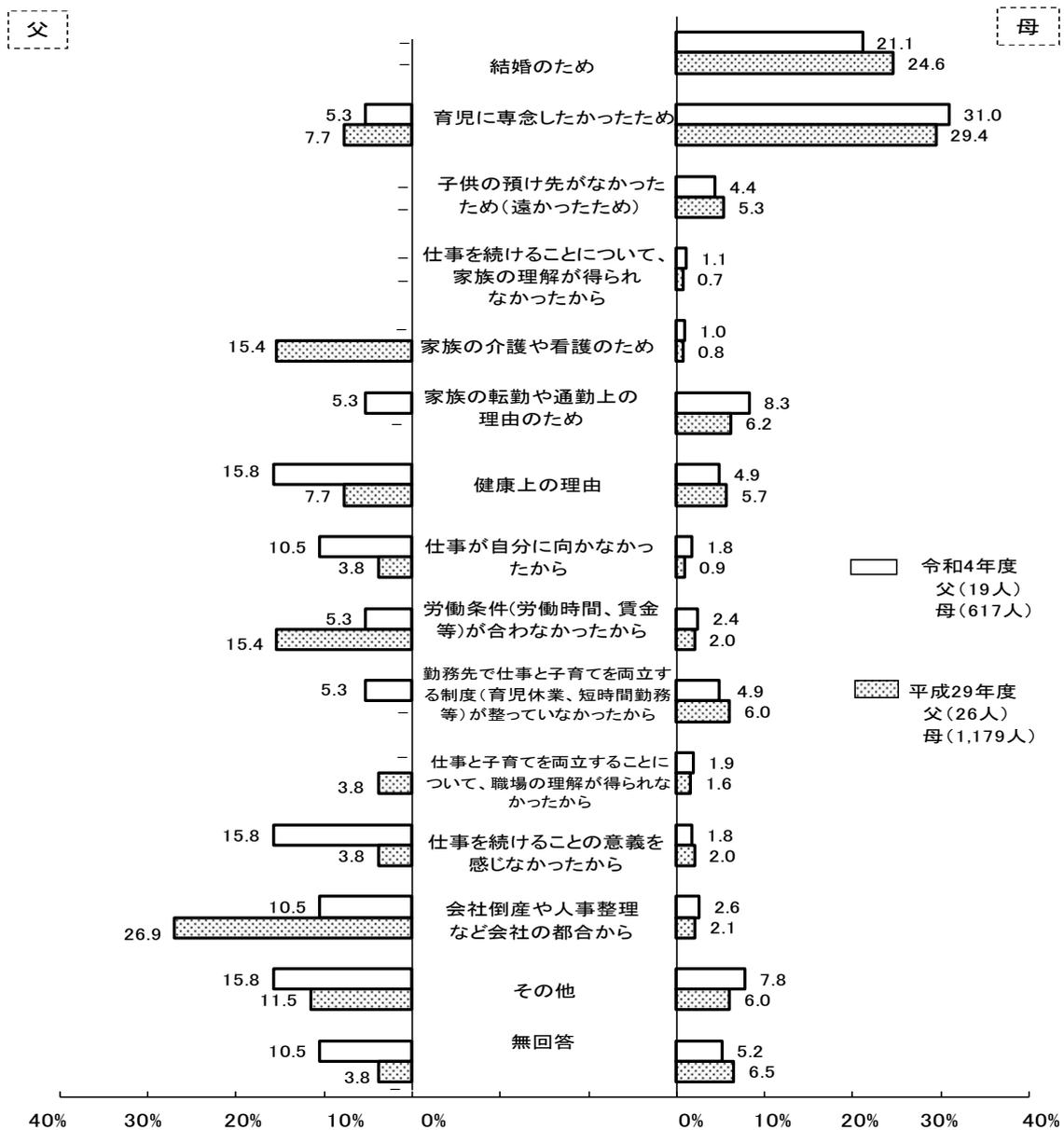
(1) 仕事をやめた理由－29年度調査との比較

母の「育児に専念したかったため」は約3割

就労状況で、「以前は働いていた」と回答した父母（636人）に、仕事をやめた理由を聞いたところ、父は、「健康上の理由」と「仕事を続けることの意義を感じられなかったから」の割合がともに15.8%で最も高くなっている。

母は、「育児に専念したかったため」の割合が31.0%で最も高く、次いで「結婚のため」が21.1%となっている。29年度調査と比べて、母の「結婚のため」は3.5ポイント低くなっている。（図Ⅲ-1-5）

図Ⅲ-1-5 仕事をやめた理由－29年度調査との比較



(2) 母の仕事をやめた理由一年齢階級別

母の「40～44歳」以下の階級では、「育児に専念したかったため」の割合が最も高い

母の仕事をやめた理由を年齢階級別にみると、全ての階級において、「育児に専念したかったため」の割合が最も高くなっている（28.5%～39.6%）。

また、「労働条件（労働時間、賃金等）が合わなかったから」の割合は、「29歳以下」が9.1%、で、母の総数（2.4%）を6.7ポイント上回っている。（表Ⅲ-1-4）

表Ⅲ-1-4 母の仕事をやめた理由一年齢階級別

	総数	結婚のため	育児に専念したかったため	子供の預け先がなかったため（遠かったため）	仕事の理解が得られなかったから	仕事を続けることについて、家族の理解が得られなかったから	家族の介護や看護のため	家族の転勤や通勤上の理由のため	健康上の理由	仕事が多忙で向かなかったから	労働条件（労働時間、賃金等）が合わなかったから	勤務先で仕事と子育てを両立する制度（育児休業、短時間勤務等）が整っていないから	職場の理解が得られなかったから	仕事と子育てを両立することについて、職場の理解が得られなかったから	仕事を続けることの意義を感じなかったから	会社倒産や人事整理など会社の都合から	その他	無回答
母	100.0 (617)	21.1	31.0	4.4	1.1	1.0	8.3	4.9	1.8	2.4	4.9	1.9	1.8	2.6	7.8	5.2		
29歳以下	100.0 (22)	22.7	31.8	-	-	-	-	-	4.5	9.1	9.1	4.5	4.5	-	4.5	9.1		
30～34歳	100.0 (77)	15.6	28.6	10.4	-	-	9.1	3.9	1.3	2.6	10.4	3.9	-	-	11.7	2.6		
35～39歳	100.0 (161)	23.0	30.4	3.7	1.2	0.6	8.1	6.2	0.6	3.1	5.6	-	1.2	1.2	7.5	7.5		
40～44歳	100.0 (179)	19.0	31.8	3.4	1.1	1.7	9.5	5.0	2.8	0.6	2.8	2.2	2.2	2.8	9.5	5.6		
45～49歳	100.0 (130)	23.1	28.5	4.6	0.8	1.5	6.9	5.4	1.5	3.1	3.1	3.1	2.3	6.9	6.2	3.1		
50歳以上	100.0 (48)	25.0	39.6	2.1	4.2	-	10.4	2.1	2.1	2.1	4.2	-	2.1	-	2.1	4.2		

(注) 父は総数が19名のため省略した。

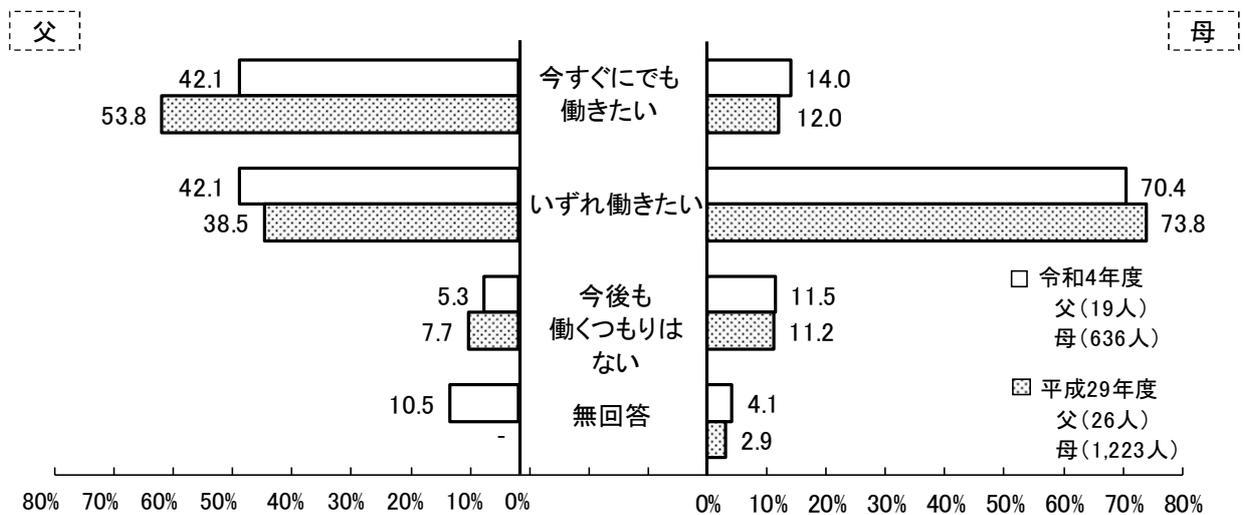
5 今後の就労希望

(1) 今後の就労希望－29年度調査との比較

「いずれ働きたい」母の割合は約7割

就労状況で、「以前は働いていた」又は「今まで働いたことはない」と回答した父母（655人）に、今後働きたいと思うか聞いたところ、父は「今すぐにでも働きたい」「いずれ働きたい」の割合がともに42.1%で最も高く、母は「いずれ働きたい」が70.4%で最も高くなっている。一方、母の「今後も働くつもりはない」の割合は11.5%となっている。（図Ⅲ-1-6）

図Ⅲ-1-6 今後の就労希望－29年度調査との比較



(2) 母の今後の就労希望一年齢階級別

「45～49 歳」以下の階級では、「今すぐにも働きたい」と「いずれ働きたい」を合わせた割合は、8 割超

母の今後の就労希望を年齢階級別にみると、「今すぐにも働きたい」、「いずれ働きたい」を合わせた割合は、「45～49 歳」以下の各階級では、いずれも 8 割以上となっている（82.7～90.9%）（表Ⅲ-1-5）

表Ⅲ-1-5 母の今後の就労希望一年齢階級別

	総数	今すぐにも働きたい	いずれ働きたい	今後働くつもりはない	無回答
母	100.0 (636)	14.0	70.4	11.5	4.1
29歳以下	100.0 (22)	9.1	81.8	4.5	4.5
		90.9			
30～34歳	100.0 (81)	16.0	71.6	8.6	3.7
		87.7			
35～39歳	100.0 (167)	9.0	77.2	9.6	4.2
		86.2			
40～44歳	100.0 (185)	16.8	65.9	12.4	4.9
		82.7			
45～49歳	100.0 (133)	16.5	67.7	12.0	3.8
		84.2			
50歳以上	100.0 (48)	12.8	66.0	19.1	2.1

(注) 父は総数が 19 名のため省略した。

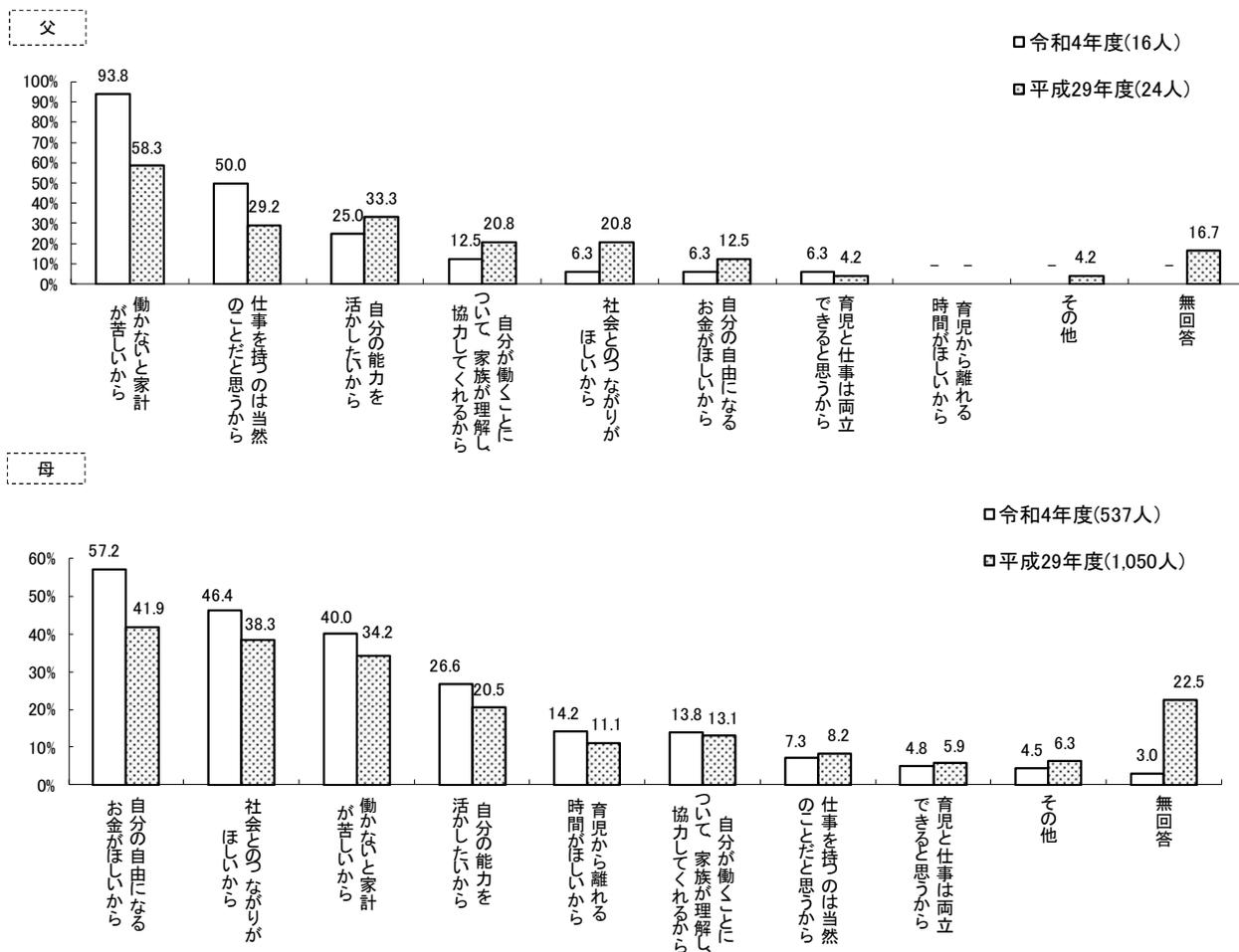
(3) 今後働きたいと思う理由〔複数回答〕－29年度調査との比較

母は「自分の自由になるお金がほしいから」の割合が5割超

今後の就労希望で、「今すぐにでも働きたい」又は「いずれ働きたい」と回答した父母（553人）に、今後働きたい理由を聞いたところ、父は「働かないと家計が苦しいから」の割合が93.8%で最も高く、次いで「仕事を持つのは当然のことだと思っから」が50.0%となっている。

母は「自分の自由になるお金がほしいから」の割合が57.2%で最も高く、次いで「社会とのつながりがほしいから」の割合が46.4%となっている。（図Ⅲ-1-7）

図Ⅲ-1-7 今後働きたいと思う理由〔複数回答〕－29年度調査との比較



(4) 母の今後働きたいと思う理由〔複数回答〕一年齢階級別

「45～49歳」以下の階級の母は「自分の自由になるお金がほしいから」の割合が最も高い

母の今後働きたい理由を年齢階級別にみたところ、「45～49歳」以下の階級では、「自分の自由になるお金がほしいから」の割合が最も高く(50.0%～62.0%)、「29歳以下」は、次いで「働かないと家計が苦しいから」で45.0%となっている。一方、「30～34歳」、「35～39歳」、「40～44歳」、「45～49歳」の階級は、次いで「社会とのつながりがほしいから」(44.4%～51.4%)となっている(表Ⅲ-1-6)

表Ⅲ-1-6 母の今後働きたいと思う理由〔複数回答〕一年齢階級別

	総数	社会とのつながりがほしいから	自分の能力を活かしたいから	自分の自由になるお金がほしいから	働かないと家計が苦しいから	育児から離れる時間がほしいから	育児と仕事は両立できると思うから	自分が働くことについて、家族が理解し、協力してくれるから	仕事を持つのは当然のことだと思うから	その他	無回答
母	100.0 (537)	46.4	26.6	57.2	40.0	14.2	4.8	13.8	7.3	4.5	3.0
29歳以下	100.0 (20)	25.0	20.0	<u>50.0</u>	<u>45.0</u>	15.0	15.0	15.0	5.0	-	-
30～34歳	100.0 (71)	<u>49.3</u>	25.4	<u>62.0</u>	45.1	22.5	7.0	23.9	12.7	2.8	1.4
35～39歳	100.0 (144)	<u>51.4</u>	26.4	<u>56.3</u>	43.1	18.8	4.9	17.4	9.7	5.6	2.8
40～44歳	100.0 (153)	<u>44.4</u>	26.8	<u>59.5</u>	35.9	9.2	3.9	9.2	3.9	4.6	3.9
45～49歳	100.0 (112)	<u>46.4</u>	27.7	<u>58.9</u>	35.7	8.9	3.6	11.6	6.3	4.5	2.7
50歳以上	100.0 (37)	40.5	29.7	40.5	45.9	16.2	2.7	5.4	5.4	5.4	5.4

(注) 父は総数が16名のため省略した。

(5) 母の今後働きたいと思う理由〔複数回答〕－世帯の年間収入別

世帯収入が「200～300万円未満」の母は「働かないと家計が苦しいから」の割合が8割超

母の今後働きたいと思う理由を世帯の年間収入別にみると、世帯の年間収入が「500～600万円未満」以下の全ての階級で、「働かないと家計が苦しいから」の割合が最も高くなっている（40.0%～83.3%）。（表Ⅲ-1-7）

表Ⅲ-1-7 母の今後働きたいと思う理由〔複数回答〕－世帯の年間収入別

	総数	社会とのつながりがほしいから	自分の能力を活かしたいから	自分の自由になるお金がほしいから	働かないと家計が苦しいから	育児から離れる時間がほしいから	育児と仕事は両立できると思うから	理解し、協力してくれるから	自分が働くことについて、家族が	から仕事を持つのには当然のことだと思う	その他	無回答
母	100.0 (537)	46.4	26.6	57.2	40.0	14.2	4.8	13.8	7.3	4.5	3.0	
200万円未満	100.0 (25)	36.0	36.0	36.0	<u>40.0</u>	16.0	12.0	12.0	16.0	4.0	8.0	
200～300万円未満	100.0 (12)	16.7	33.3	33.3	<u>83.3</u>	-	-	-	8.3	8.3	8.3	
300～400万円未満	100.0 (29)	24.1	24.1	41.4	<u>69.0</u>	13.8	3.4	6.9	6.9	10.3	3.4	
400～500万円未満	100.0 (48)	35.4	14.6	54.2	<u>60.4</u>	12.5	4.2	12.5	4.2	8.3	6.3	
500～600万円未満	100.0 (76)	42.1	18.4	59.2	<u>60.5</u>	14.5	2.6	10.5	3.9	3.9	1.3	
600～800万円未満	100.0 (105)	43.8	26.7	54.3	52.4	13.3	9.5	18.1	8.6	2.9	1.0	
800～1,000万円未満	100.0 (81)	53.1	34.6	69.1	23.5	16.0	3.7	18.5	9.9	2.5	1.2	
1,000～1,200万円未満	100.0 (64)	57.8	26.6	60.9	17.2	17.2	1.6	12.5	4.7	6.3	3.1	
1,200～1,500万円未満	100.0 (37)	54.1	18.9	70.3	16.2	13.5	5.4	16.2	10.8	-	-	
1,500万円以上	100.0 (47)	68.1	38.3	55.3	12.8	10.6	4.3	12.8	6.4	4.3	6.4	

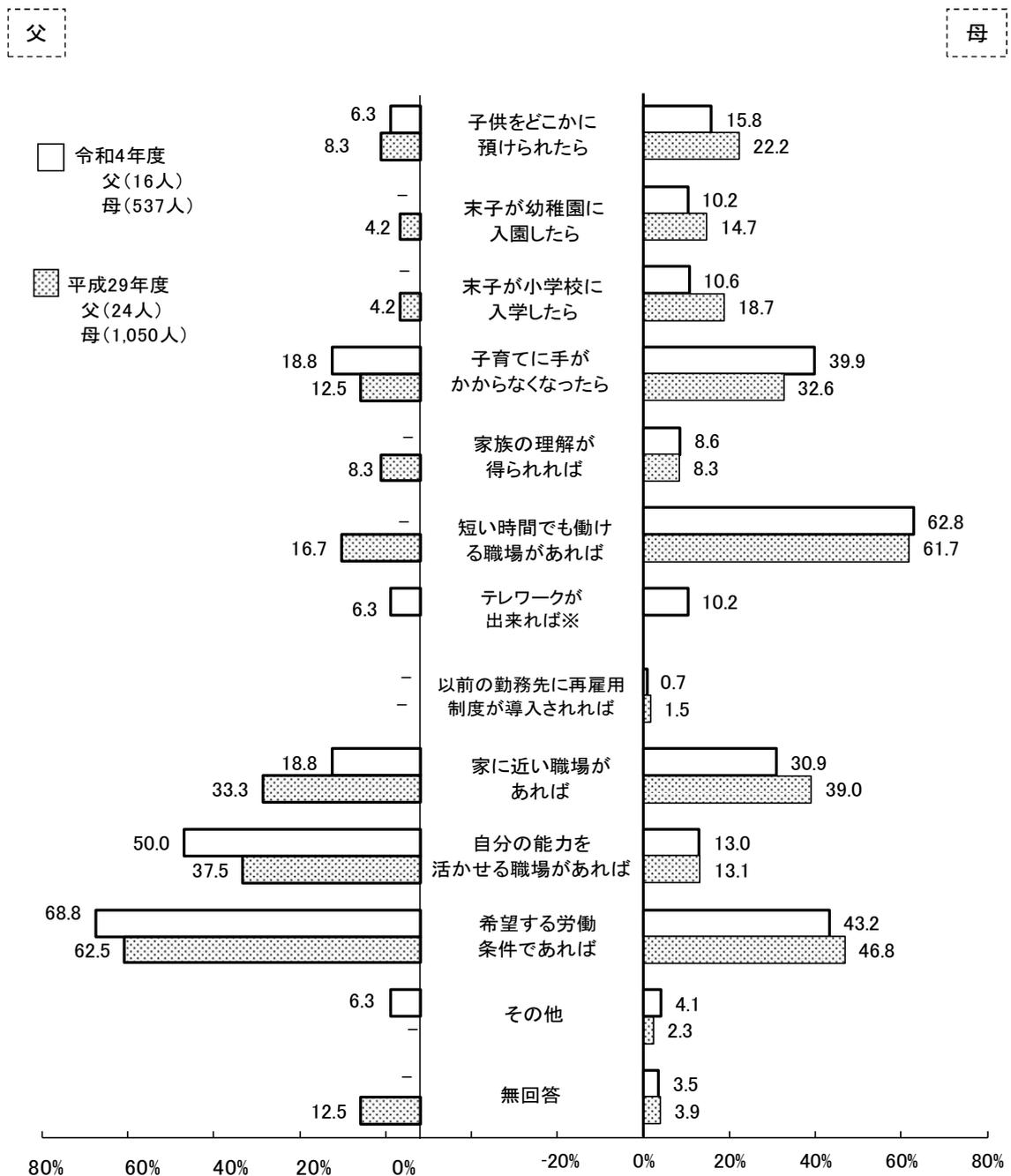
(注) 父は総数が16名のため省略した。

(6) 今後働くための条件〔複数回答〕－29年度調査との比較

母は「短い時間でも働ける職場があれば」の割合が最も高く6割超

今後の就労希望で、「今すぐにでも働きたい」又は「いずれ働きたい」と回答した父母（553人）に、どのような条件が満たされれば働くことができると思うか聞いたところ、父は、「希望する労働条件であれば」が68.8%で最も高く、母は「短い時間でも働ける職場があれば」が62.8%で最も高くなっている。（図Ⅲ-1-8）

図Ⅲ-1-8 今後働くための条件〔複数回答〕－29年度調査との比較



(注)※について、平成29年度調査では、選択肢を設けていないためデータが存在しない。

(7) 母の今後働くための条件〔複数回答〕一年齢階級別

全ての階級で、「短い時間でも働ける職場があれば」の割合が最も高い

母が今後働くための条件を年齢階級別にみると、全ての階級で「短い時間でも働ける職場があれば」の割合が最も高くなっている（55.0%～64.8%）。なお、「50歳以上」は「テレワークができれば」の割合が56.8%で、「短い時間でも働ける職場があれば」と同値となっている。

（表Ⅲ-1-8）

表Ⅲ-1-8 母の今後働くための条件〔複数回答〕一年齢階級別

	総数	子供をどこかに預けられたら	末子が幼稚園に入園したら	末子が小学校に入学したら	子育てに手がかからなくなったら	家族の理解が得られれば	短い時間でも働ける職場があれば	テレワークが出来れば	以前の勤務先に再雇用制度が導入されれば	家に近い職場があれば	自分の能力を活かせる職場があれば	希望する労働条件であれば	その他	無回答
母	100.0 (537)	15.8	10.2	10.6	39.9	8.6	62.8	10.2	0.7	30.9	13.0	43.2	4.1	3.5
29歳以下	100.0 (20)	45.0	45.0	10.0	25.0	-	<u>55.0</u>	5.0	5.0	15.0	5.0	50.0	-	-
30～34歳	100.0 (71)	35.2	21.1	18.3	22.5	1.4	<u>64.8</u>	8.5	1.4	26.8	7.0	42.3	1.4	4.2
35～39歳	100.0 (144)	20.1	16.0	13.2	41.7	6.9	<u>63.2</u>	8.3	-	31.9	11.8	37.5	2.1	3.5
40～44歳	100.0 (153)	10.5	5.2	11.1	42.5	12.4	<u>64.1</u>	12.4	-	29.4	12.4	47.1	5.2	4.6
45～49歳	100.0 (112)	5.4	-	5.4	47.3	11.6	<u>62.5</u>	12.5	1.8	34.8	18.8	45.5	6.3	2.7
50歳以上	100.0 (37)	-	-	-	37.8	8.1	<u>56.8</u>	<u>56.8</u>	-	37.8	18.9	40.5	8.1	2.7

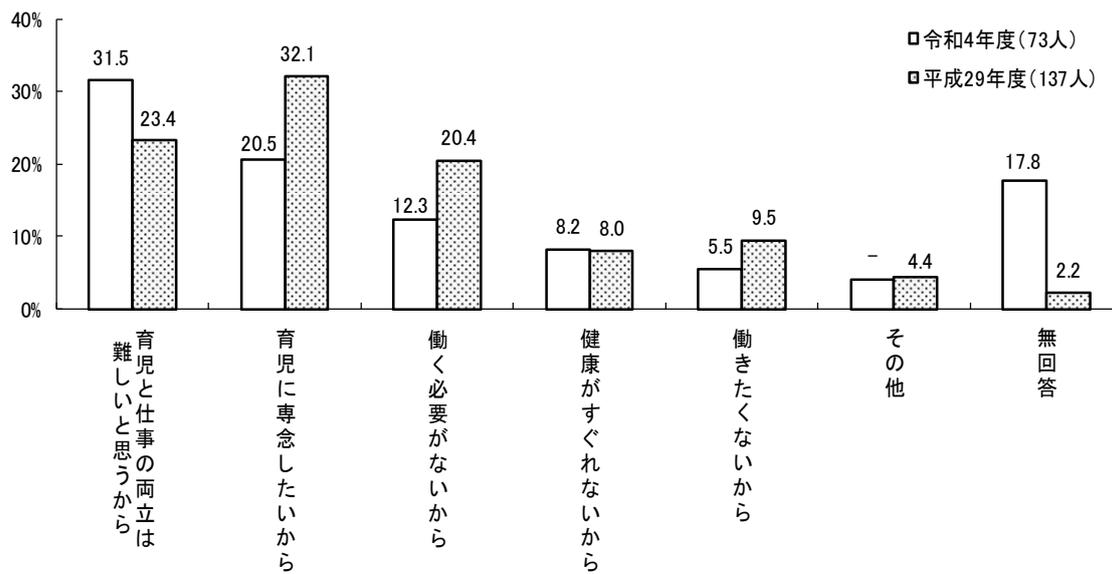
（注）父は総数が16名のため省略した。

(8) 母の働く意向がない理由－29年度調査との比較

「育児と仕事の両立は難しいと思うから」の割合が最も高く、約3割

今後の就労希望で、「今後も働くつもりはない」と回答した母（73人）に、その理由を聞いたところ、「育児と仕事の両立は難しいと思うから」の割合が31.5%で最も高く、次いで「育児に専念したいから」が20.5%、「働く必要がないから」が12.3%となっている。（図Ⅲ-1-9）

図Ⅲ-1-9 母の働く意向がない理由－29年度調査との比較



(注) 父は令和4年度調査の総数が1名のため省略した。

(9) 母の働く意向がない理由一年齢階級別

「30～34 歳」の階級では「育児と仕事の両立は難しいと思うから」の割合が4割超

母の今後も働く意向がない理由を年齢階級別にみると、「30～34 歳」、「40～44 歳」、「45～49 歳」では「育児と仕事の両立は難しいと思うから」の割合が最も高く（42.9%、39.1%、31.3%）、
「35～39 歳」では「育児に専念したいから」の割合が25.0%で最も高くなっている。

(表Ⅲ-1-9)

表Ⅲ-1-9 母の働く意向がない理由一年齢階級別

	総数	育児に専念したいから	働く必要がないから	難 育 児 しいと 児 仕事と の 両立は	健康がすぐれないから	働きたくないから	その他	無回答
母	100.0 (73)	20.5	12.3	31.5	8.2	5.5	4.1	17.8
29歳以下	100.0 (1)	-	-	-	-	-	100.0	-
30～34歳	100.0 (7)	28.6	-	<u>42.9</u>	-	-	-	28.6
35～39歳	100.0 (16)	<u>25.0</u>	12.5	18.8	12.5	6.3	6.3	18.8
40～44歳	100.0 (23)	13.0	13.0	<u>39.1</u>	-	13.0	-	21.7
45～49歳	100.0 (16)	18.8	6.3	<u>31.3</u>	18.8	-	6.3	18.8
50歳以上	100.0 (10)	30.0	30.0	30.0	10.0	-	-	-

(注) 父は総数が1名のため省略した。

(10) 母の働く意向がない理由—世帯の年間収入別

母の今後も働く意向がない理由を世帯の年間収入別にみると、「600～800万円未満」、「800～1,000万円未満」「1,500万円以上」において、「育児と仕事の両立は難しいと思うから」の割合が最も高くなっている（31.3%、50.0%、40.0%）。

「1,000～1,200万円未満」では「育児に専念したいから」の割合が40.0%、「1,200～1,500万円未満」では「働く必要がないから」が44.4%で、それぞれ最も高くなっている。（表Ⅲ-1-10）

表Ⅲ-1-10 母の働く意向がない理由—世帯の年間収入別

	総数	育児に専念したいから	働く必要がないから	難しいと仕事 の両立は	健康がすぐれないから	働きたくないから	その他	無回答
母	100.0 (73)	20.5	12.3	31.5	8.2	5.5	4.1	17.8
200万円未満	100.0 (3)	33.3	-	33.3	-	-	-	33.3
200～300万円未満	100.0 (2)	-	-	-	100.0	-	-	-
300～400万円未満	100.0 (3)	-	-	-	-	-	33.3	66.7
400～500万円未満	100.0 (3)	33.3	-	33.3	-	33.3	-	-
500～600万円未満	100.0 (4)	50.0	-	25.0	-	-	-	25.0
600～800万円未満	100.0 (16)	6.3	12.5	<u>31.3</u>	18.8	6.3	6.3	18.8
800～1,000万円未満	100.0 (12)	25.0	8.3	<u>50.0</u>	8.3	-	-	8.3
1,000～1,200万円未満	100.0 (10)	<u>40.0</u>	10.0	30.0	-	10.0	-	10.0
1,200～1,500万円未満	100.0 (9)	11.1	<u>44.4</u>	11.1	-	11.1	11.1	11.1
1,500万円以上	100.0 (10)	20.0	10.0	<u>40.0</u>	-	-	-	30.0

(注) 父は総数が1名のため省略した。

第2章 育児休業制度

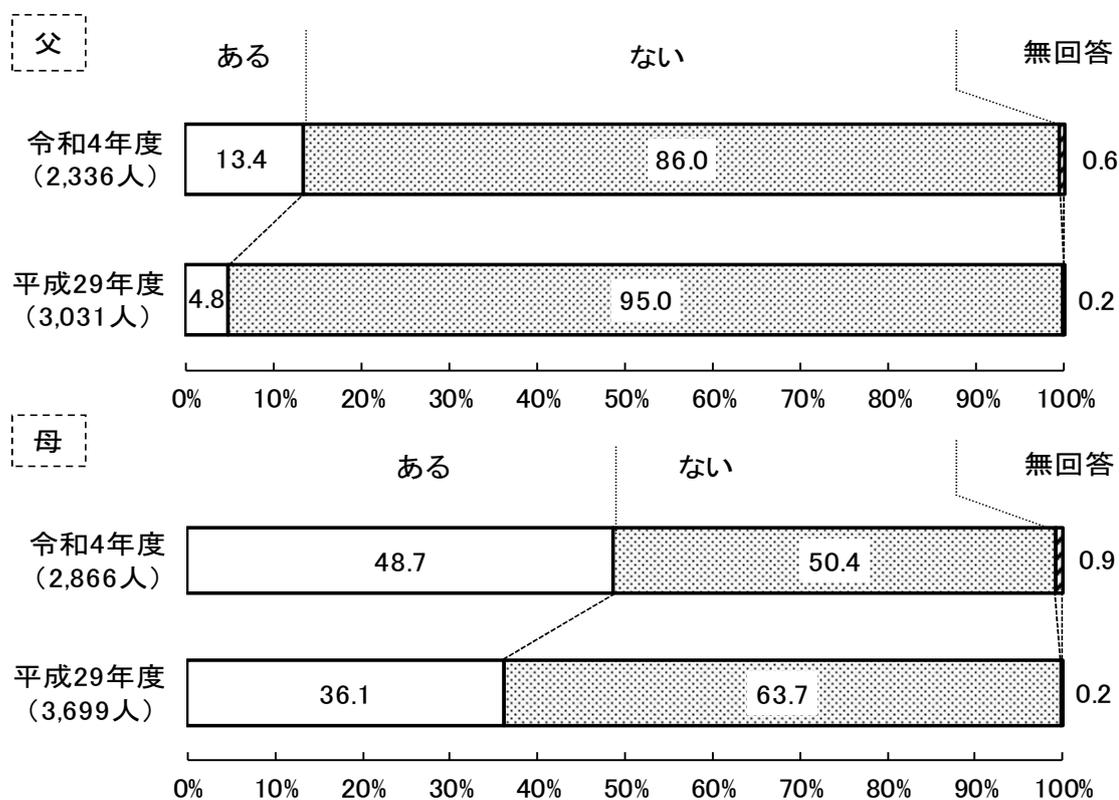
1 育児休業制度の利用の有無

(1) 育児休業制度の利用の有無－29年度調査との比較

育児休業制度の利用割合は父母ともに増加し、父は1割超、母は約5割

対象者全員に育児休業制度を利用したことがあるか聞いたところ、「ある」と回答した割合は、父が13.4%、母は48.7%となっており、29年度調査と比較して、父は8.6ポイント、母は12.6ポイントそれぞれ高くなっている。(図Ⅲ-2-1)

図Ⅲ-2-1 育児休業制度の利用の有無－29年度調査との比較



(2) 育児休業制度の利用の有無一性・年齢階級別

「30～34歳」の階級において、父は2割超、母は約6割

育児休業制度利用の有無を性・年齢階級別にみると、父は「30～34歳」で「ある」と回答した割合が24.9%で最も高く、次いで「35～39歳」が18.5%、「29歳以下」が15.8%となっている。母は、「30～34歳」の割合が59.6%で最も高く、「29歳以下」、「35～39歳」で「ある」と回答した割合も5割を超えている（56.8%、54.8%）。（表Ⅲ-2-1）

表Ⅲ-2-1 育児休業制度の利用の有無一性・年齢階級別

	総数	ある	ない	無回答
総数	100.0 (5,202)	32.9	66.4	0.7
父	100.0 (2,336)	13.4	86.0	0.6
29歳以下	100.0 (38)	<u>15.8</u>	81.6	2.6
30～34歳	100.0 (249)	<u>24.9</u>	74.7	0.4
35～39歳	100.0 (518)	<u>18.5</u>	81.1	0.4
40～44歳	100.0 (663)	12.8	86.4	0.8
45～49歳	100.0 (538)	7.4	92.4	0.2
50歳以上	100.0 (330)	7.3	91.8	0.9
母	100.0 (2,866)	48.7	50.4	0.9
29歳以下	100.0 (88)	<u>56.8</u>	42.0	1.1
30～34歳	100.0 (371)	<u>59.6</u>	39.4	1.1
35～39歳	100.0 (741)	<u>54.8</u>	44.3	0.9
40～44歳	100.0 (820)	47.9	51.3	0.7
45～49歳	100.0 (601)	40.1	59.1	0.8
50歳以上	100.0 (245)	35.1	64.1	0.8

2 育児休業の取得期間の現実と理想

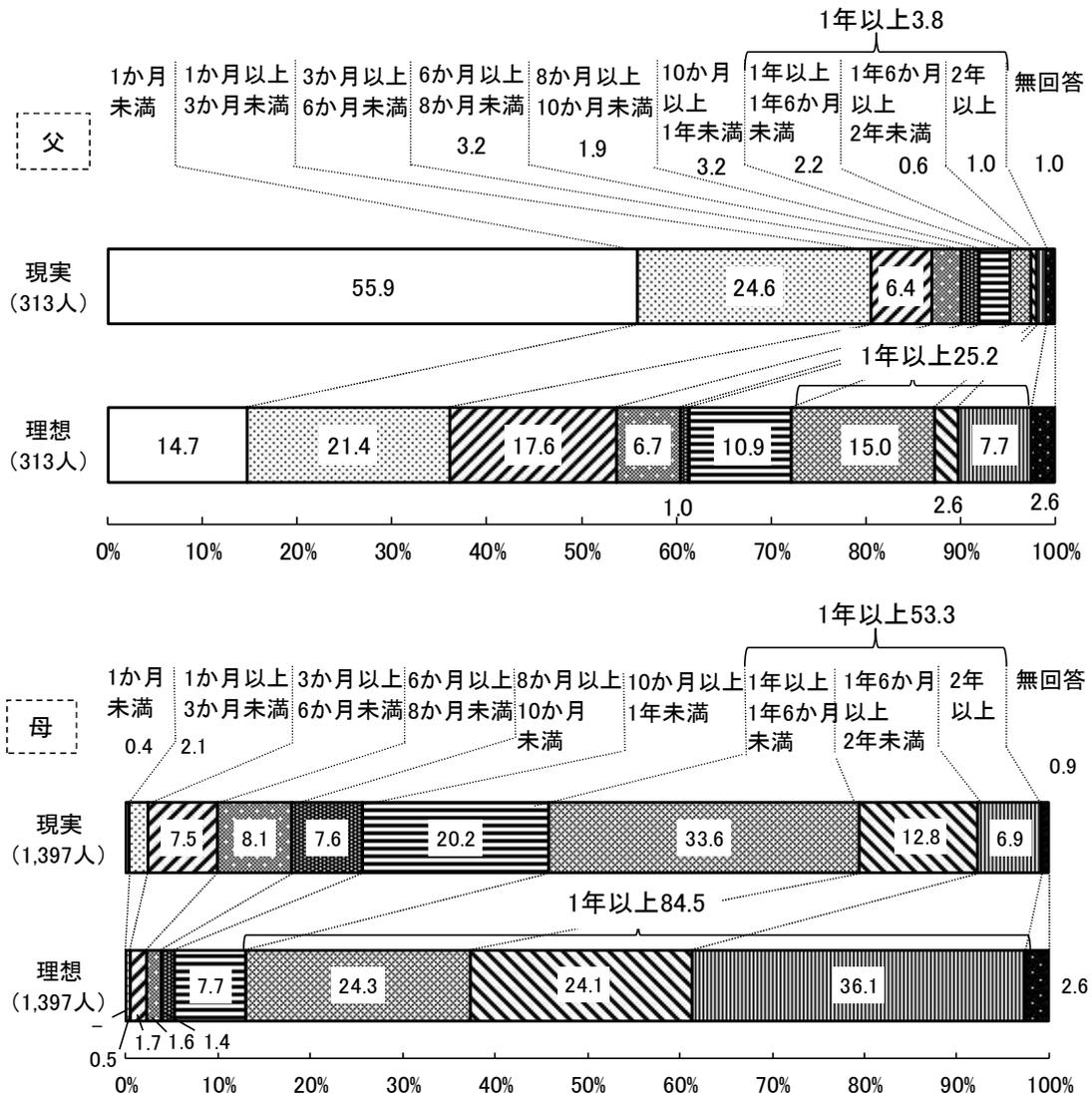
(1) 育児休業の取得期間の現実と理想

父は「1年以上」を理想とする割合が2割超だが、現実には1割未満、母は「1年以上」を理想とする割合が8割超だが、現実には5割超

育児休業制度を利用したことがある父母（1,710人）に、育児休業を取得した実際の期間と理想の期間を聞いたところ、父は、「1年以上1年6か月未満」、「1年6か月以上2年未満」、「2年以上」を合わせた、「1年以上」を理想としている割合は25.2%であるのに対して、現実には「1年以上」取得できた割合は3.8%となっている。

一方、母は「1年以上」を理想としている割合は84.5%であるのに対して、現実には「1年以上」取得できた割合は、53.3%となっている。（図Ⅲ-2-2）

図Ⅲ-2-2 育児休業の取得期間の現実と理想



(2) 育児休業の現実の取得期間—年齢階級別

父は「1か月未満」の割合が高く、母は「1年以上1年6か月未満」の割合が高い

育児休業の現実の取得期間を年齢階級別にみると、父は、「30～34歳」以上の各階級では、「1か月未満」の割合が最も高くなっている（51.6%～66.7%）。母は、「45～49歳」以下の各階級では、「1年以上1年6か月未満」の割合が最も高くなっている（31.2%～40.0%）。(表Ⅲ-2-2)

表Ⅲ-2-2 育児休業の現実の取得期間—年齢階級別

	総数	1か月未満	1か月以上3か月未満	3か月以上6か月未満	6か月以上8か月未満	8か月以上10か月未満	10か月以上1年未満	1年以上1年6か月未満	1年6か月以上2年未満	2年以上	無回答
総数	100.0 (1,710)	10.5	6.2	7.3	7.2	6.5	17.1	27.9	10.6	5.8	0.9
父	100.0 (313)	55.9	24.6	6.4	3.2	1.9	3.2	2.2	0.6	1.0	1.0
29歳以下	100.0 (6)	33.3	33.3	16.7	-	-	16.7	-	-	-	-
30～34歳	100.0 (62)	<u>51.6</u>	35.5	4.8	3.2	3.2	-	1.6	-	-	-
35～39歳	100.0 (96)	<u>52.1</u>	22.9	7.3	5.2	3.1	5.2	2.1	-	1.0	1.0
40～44歳	100.0 (85)	<u>58.8</u>	21.2	8.2	3.5	1.2	1.2	2.4	1.2	2.4	-
45～49歳	100.0 (40)	<u>62.5</u>	22.5	-	-	-	5.0	5.0	-	-	5.0
50歳以上	100.0 (24)	<u>66.7</u>	16.7	8.3	-	-	4.2	-	4.2	-	-
母	100.0 (1,397)	0.4	2.1	7.5	8.1	7.6	20.2	33.6	12.8	6.9	0.9
29歳以下	100.0 (50)	-	2.0	8.0	8.0	8.0	20.0	<u>40.0</u>	14.0	-	-
30～34歳	100.0 (221)	-	0.9	5.0	8.1	8.1	17.6	<u>31.2</u>	19.0	9.5	0.5
35～39歳	100.0 (406)	0.2	2.2	4.9	8.1	6.7	18.2	<u>38.4</u>	13.1	7.4	0.7
40～44歳	100.0 (393)	1.0	1.0	8.4	7.4	6.4	23.7	<u>33.1</u>	11.5	6.4	1.3
45～49歳	100.0 (241)	-	4.1	9.1	10.0	10.4	17.0	<u>32.0</u>	10.4	6.2	0.8
50歳以上	100.0 (86)	-	3.5	17.4	5.8	8.1	29.1	20.9	8.1	5.8	1.2

(3) 育児休業の理想の取得期間－年齢階級別

父は「30～34歳」では「3か月以上6か月未満」の割合が2割超

育児休業の理想の取得期間を年齢階級別にみると、父は、「35～39歳」、「40～44歳」、「50歳以上」は「1か月以上3か月未満」の割合が最も高く（18.8%、27.1%、25.0%）、「30～34歳」は「3か月以上6か月未満」が22.6%で最も高くなっている。母は、「45～49歳」は「1年以上1年6か月未満」の割合が28.6%で最も高く、他の階級では「2年以上」の割合が最も高くなっている（34.1%～45.7%）。（表Ⅲ-2-3）

表Ⅲ-2-3 育児休業の理想の取得期間－年齢階級別

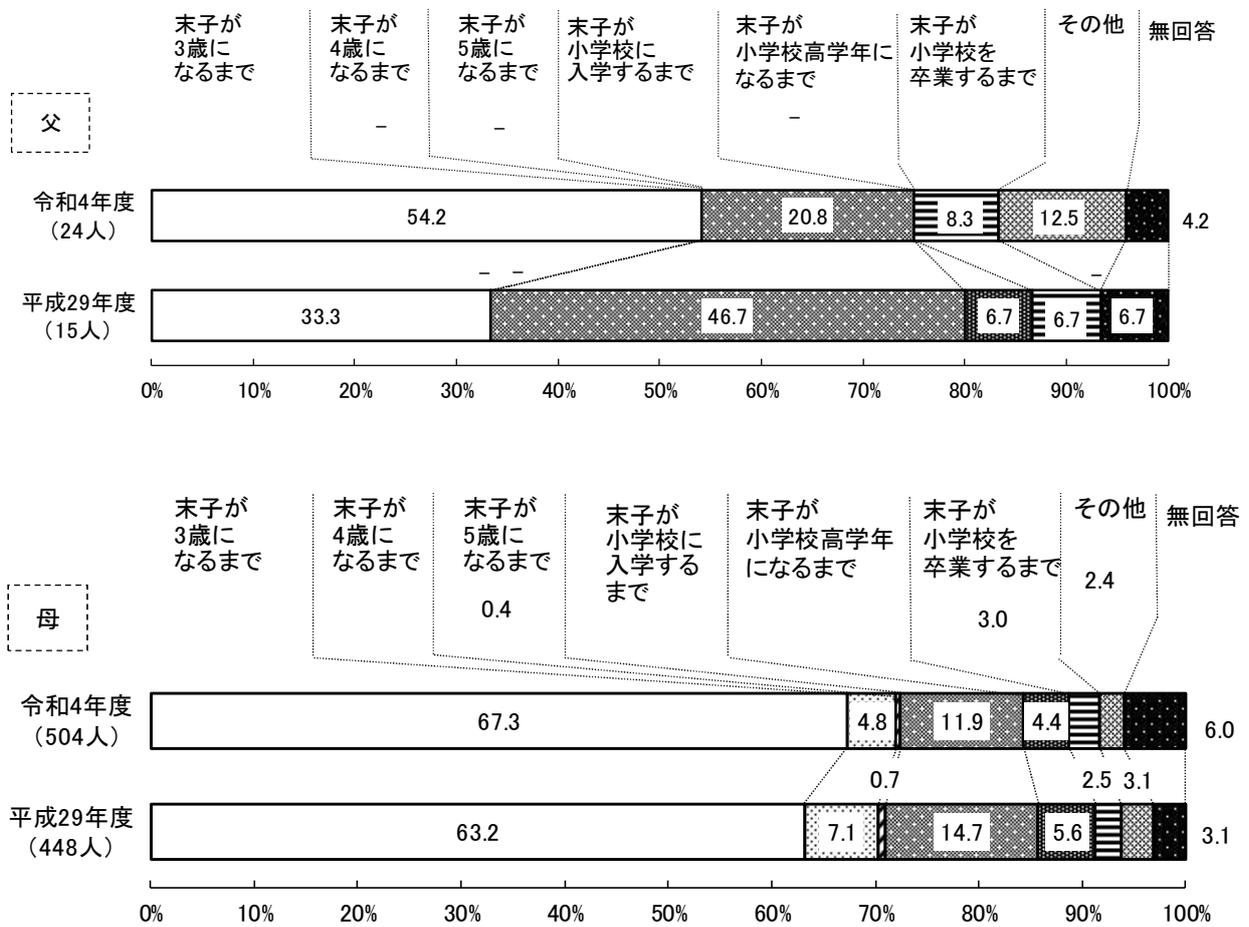
	総数	1か月未満	1か月以上3か月未満	3か月以上6か月未満	6か月以上8か月未満	8か月以上10か月未満	10か月以上1年未満	1年以上1年6か月未満	1年6か月以上2年未満	2年以上	無回答
総数	100.0 (1,710)	2.7	4.3	4.6	2.6	1.3	8.2	22.6	20.1	30.9	2.6
父	100.0 (313)	14.7	21.4	17.6	6.7	1.0	10.9	15.0	2.6	7.7	2.6
29歳以下	100.0 (6)	16.7	-	33.3	33.3	-	16.7	-	-	-	-
30～34歳	100.0 (62)	9.7	21.0	<u>22.6</u>	4.8	1.6	16.1	16.1	1.6	6.5	-
35～39歳	100.0 (96)	14.6	<u>18.8</u>	15.6	9.4	1.0	12.5	13.5	1.0	11.5	2.1
40～44歳	100.0 (85)	15.3	<u>27.1</u>	15.3	3.5	1.2	5.9	15.3	3.5	9.4	3.5
45～49歳	100.0 (40)	20.0	17.5	20.0	5.0	-	10.0	17.5	2.5	-	7.5
50歳以上	100.0 (24)	16.7	<u>25.0</u>	12.5	8.3	-	8.3	16.7	8.3	4.2	-
母	100.0 (1,397)	-	0.5	1.7	1.6	1.4	7.7	24.3	24.1	36.1	2.6
29歳以下	100.0 (50)	-	-	2.0	4.0	2.0	6.0	24.0	20.0	<u>38.0</u>	4.0
30～34歳	100.0 (221)	-	-	2.3	1.4	0.9	5.4	20.8	22.2	<u>45.7</u>	1.4
35～39歳	100.0 (406)	-	0.5	1.0	2.0	1.0	7.9	23.9	22.7	<u>37.7</u>	3.4
40～44歳	100.0 (393)	-	0.3	1.8	1.5	2.0	6.4	24.2	27.7	<u>34.1</u>	2.0
45～49歳	100.0 (241)	-	0.4	1.2	1.7	2.1	11.6	<u>28.6</u>	25.3	26.1	2.9
50歳以上	100.0 (86)	-	3.5	4.7	-	-	8.1	24.4	17.4	<u>39.5</u>	2.3

(4) 育児休業の理想の取得期間（2年以上の場合）-29年度調査との比較

2年以上の育児休業を理想とする父母の具体的な取得希望期間は、「末子が3歳になるまで」の割合が最も高い

育児休業の理想の取得期間が2年以上である父母（528人）に、具体的にいつまで育児休業を取りたいと思うか聞いたところ、「末子が3歳になるまで」の割合が父は54.2%、母は67.3%で最も高く、次いで「末子が小学校に入学するまで」が父は20.8%、母は11.9%となっている。（図Ⅲ-2-3）

図Ⅲ-2-3 育児休業の理想の取得期間（2年以上の場合）-29年度調査との比較



(5) 育児休業の取得期間の現実と理想のギャップの有無とその理由〔複数回答〕

－29年度調査との比較

「ギャップがある」割合は、父が7割超、母が約7割

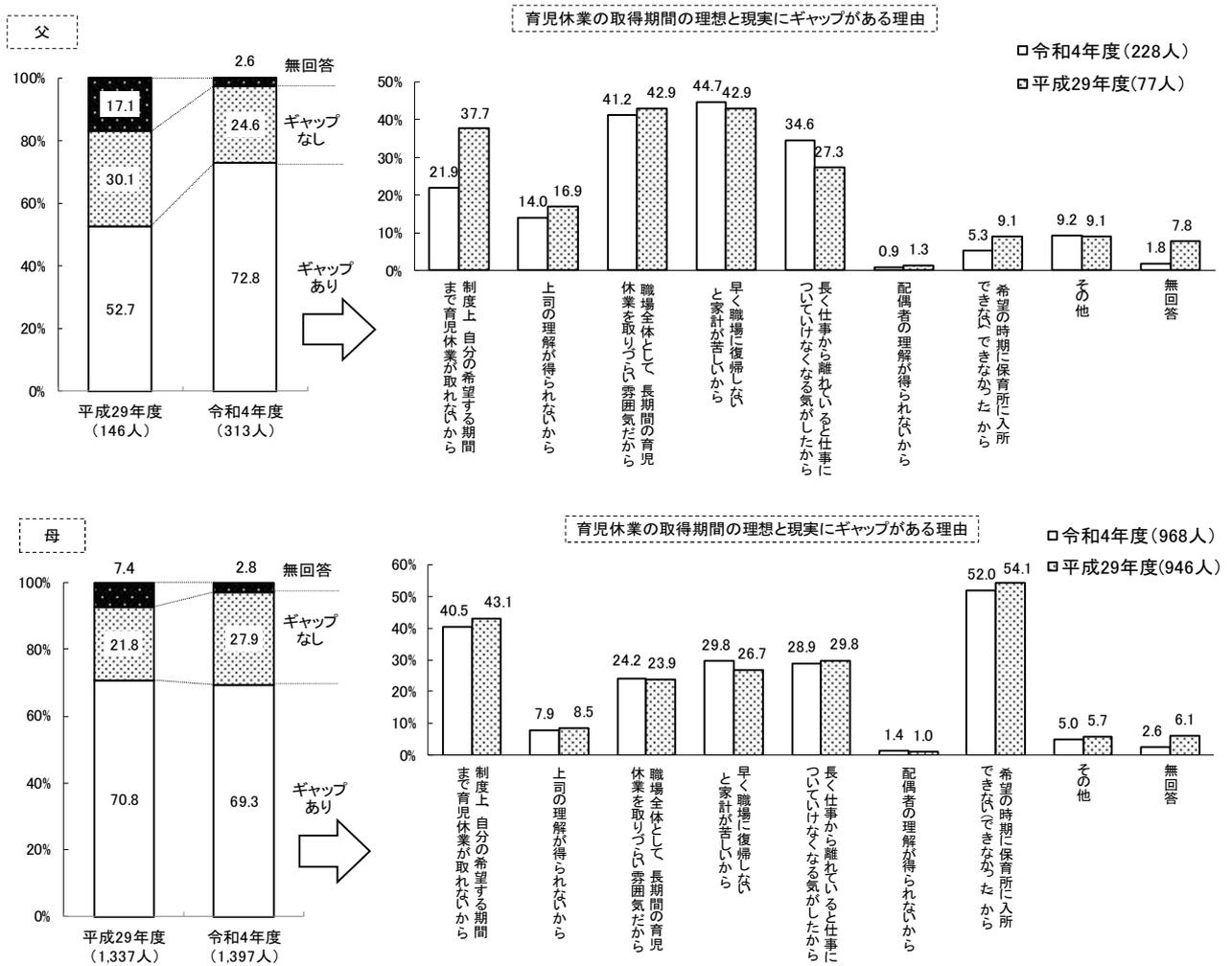
育児休業制度を利用したことがある父母(1,710人)の、実際の取得期間と理想の取得期間にギャップがあるかをみると、「ギャップあり」の割合は、父が72.8%、母は69.3%となっている。

育児休業の実際の取得期間と理想の取得期間にギャップがあった父母(1,196人)について、その理由をみると、父は、「早く職場に復帰しないと家計が苦しいから」が44.7%で最も高く、次いで「職場全体として、長期間の育児休業を取りづらい雰囲気だから」の割合が41.2%となっている。

一方、母は、「希望の時期に保育所に入所できない(できなかった)から」の割合が52.0%で最も高く、次いで「制度上、自分の希望する期間まで育児休業が取れないから」が40.5%となっている。(図Ⅲ-2-4)

図Ⅲ-2-4 育児休業の取得期間の現実と理想のギャップの有無とその理由〔複数回答〕

－29年度調査との比較



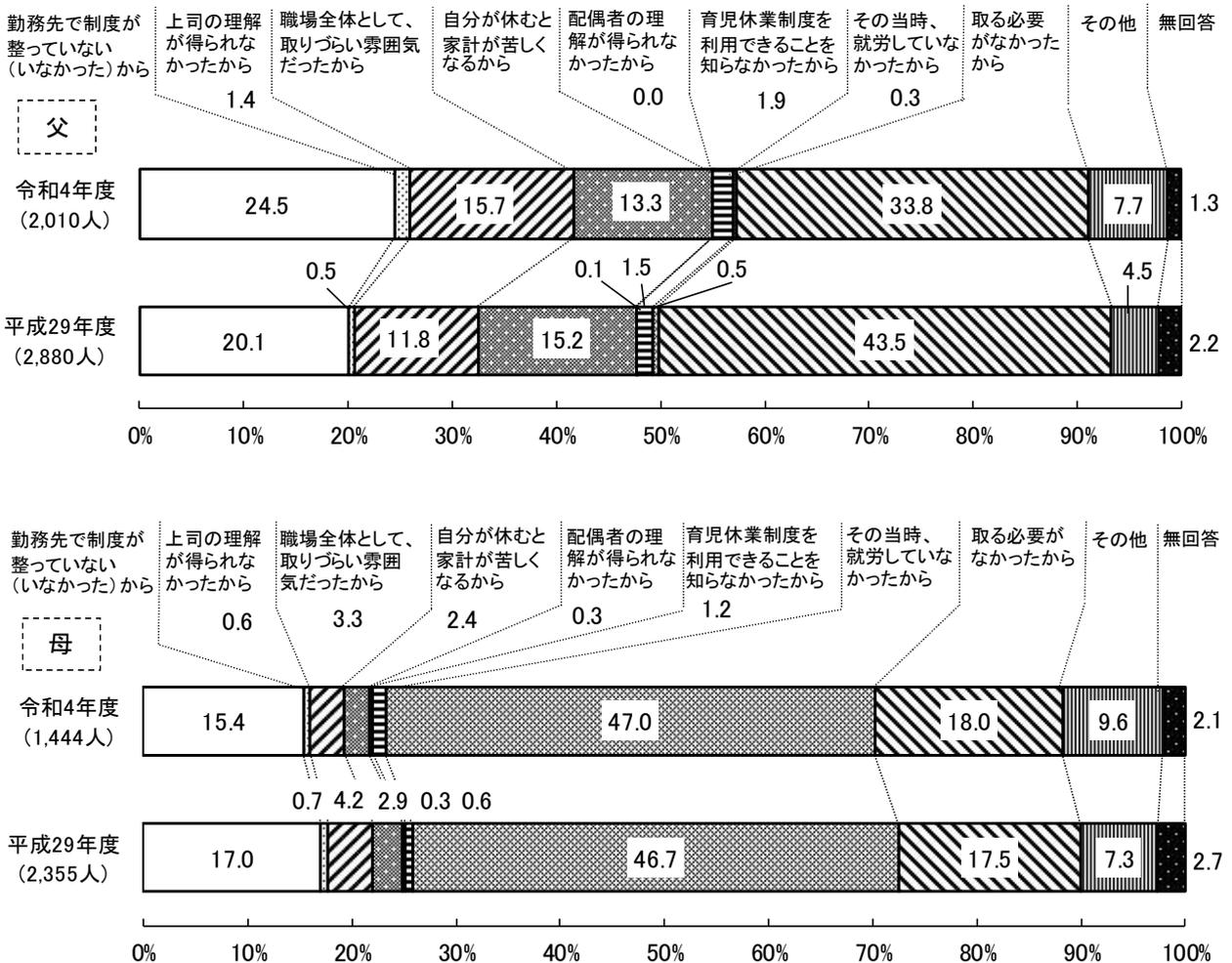
(6) 育児休業を利用しなかった理由－29年度調査との比較

父は「取る必要がなかったから」の割合が3割超、母は「その当時、就労していなかったから」の割合が4割超

育児休業を利用しなかった父母（3,454人）に、理由を聞いたところ、父は「取る必要がなかったから」の割合が33.8%で最も高く、次いで「勤務先で制度が整っていない（いなかった）から」が24.5%、「職場全体として取りづらい雰囲気だったから」が15.7%となっている。

一方、母は、「その当時、就労していなかったから」の割合が47.0%で最も高く、次いで「取る必要がなかったから」が18.0%、「勤務先で制度が整っていない（いなかった）から」が15.4%となっている。（図Ⅲ-2-5）

図Ⅲ-2-5 育児休業を利用しなかった理由－29年度調査との比較



(7) 育児休業を利用しなかった理由-1 番下の子供の年齢別

父は「1歳未満」の年齢階級では「勤務先で制度が整っていない（いなかった）から」の割合が最も高い

育児休業を利用しなかった理由を、1番下の子供の年齢別にみると、父は、1番下の子供の年齢が「1歳未満」では「勤務先で制度が整っていない（いなかった）から」の割合が21.0%で最も高く、その他の年齢階級では「取る必要がなかったから」の割合が最も高くなっている（28.5%～41.2%）。

一方、母は、1番下の子供の全ての年齢階級で「その当時、就労していなかったから」の割合が最も高くなっている（33.8%～51.5%）。（表Ⅲ-2-4）

表Ⅲ-2-4 育児休業を利用しなかった理由-1 番下の子供の年齢別

	総数	（勤務先で制度が整っていない）から	上司の理解が得られなかったから	職場全体として、取りづらい雰囲気だったから	自分が休むと家計が苦しくなるから	配偶者の理解が得られなかったから	育児休業制度を利用できなかったから	その当時、就労していなかったから	取る必要がなかったから	その他	無回答
総数	100.0 (3,454)	20.7	1.1	10.5	8.7	0.2	1.6	19.8	27.2	8.5	1.7
父	100.0 (2,010)	24.5	1.4	15.7	13.3	0.0	1.9	0.3	33.8	7.7	1.3
1歳未満	100.0 (138)	<u>21.0</u>	2.9	16.7	18.8	-	1.4	-	20.3	18.1	0.7
1～3歳未満	100.0 (336)	20.5	1.2	21.7	16.1	-	0.9	0.6	<u>28.6</u>	8.9	1.5
3～6歳未満	100.0 (478)	25.5	2.1	16.9	14.6	-	2.1	0.2	<u>28.5</u>	8.4	1.7
6～9歳未満	100.0 (505)	24.2	1.0	16.6	11.3	0.2	2.6	0.4	<u>39.2</u>	3.6	1.0
9～12歳未満	100.0 (450)	27.6	1.1	10.0	11.8	-	2.2	0.2	<u>40.0</u>	5.8	1.3
12歳以上	100.0 (97)	25.8	1.0	7.2	7.2	-	1.0	-	<u>41.2</u>	16.5	-
母	100.0 (1,444)	15.4	0.6	3.3	2.4	0.3	1.2	47.0	18.0	9.6	2.1
1歳未満	100.0 (68)	10.3	1.5	4.4	2.9	-	2.9	<u>33.8</u>	19.1	23.5	1.5
1～3歳未満	100.0 (153)	20.3	0.7	3.3	-	-	1.3	<u>41.2</u>	18.3	13.7	1.3
3～6歳未満	100.0 (270)	14.1	1.1	1.9	1.9	0.4	1.1	<u>49.6</u>	14.1	13.3	2.6
6～9歳未満	100.0 (331)	14.8	0.6	4.8	2.7	-	1.2	<u>47.7</u>	18.7	7.3	2.1
9～12歳未満	100.0 (373)	13.7	-	3.2	0.5	0.8	0.5	<u>51.5</u>	20.4	7.8	1.6
12歳以上	100.0 (240)	18.3	0.4	2.9	6.7	0.4	1.7	<u>43.8</u>	17.5	5.4	2.9

第3章 子育てに関して感じること

1 出産をしやすくするために必要なもの

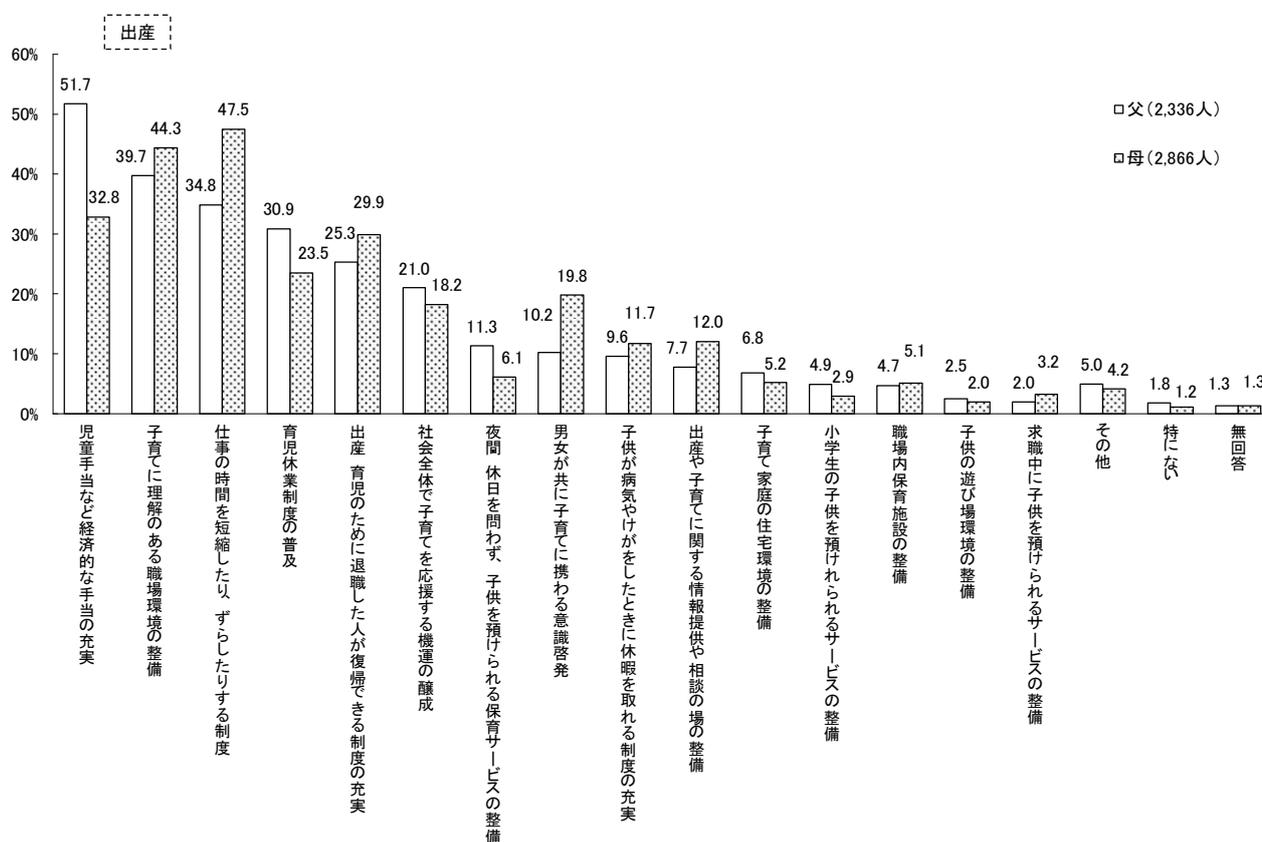
(1) 出産をしやすくするために必要なもの〔複数回答〕

父は、「児童手当など経済的な手当の充実」が、母は「仕事の時間を短縮したり、ずらしたりする制度」がそれぞれ最も高い。

対象者全員に出産をしやすくするためには何が必要だと思うか聞いたところ、父は「児童手当など経済的な手当の充実」が51.7%で最も高く、次いで「子育てに理解のある職場環境の整備」が39.7%となっている。

母は「仕事の時間を短縮したり、ずらしたりする制度」が47.5%で最も高く、次いで「子育てに理解のある職場環境の整備」が44.3%となっている。(図Ⅲ-3-1)

図Ⅲ-3-1 出産をしやすくするために必要なもの〔複数回答〕



(2) 出産をしやすいするために必要なもの〔複数回答〕－性・年齢階級別

父は全ての階級で「児童手当など経済的な手当の充実」の割合が高く、母は「仕事の時間を短縮したり、ずらしたりする制度」の割合が高い階級が多い

出産をしやすいするために必要なものを性・年齢階級別にみると、父は、全ての階級で「児童手当など経済的な手当の充実」の割合が最も高くなっている（42.7%～65.8%）。

母は「45～49歳」以外の各階級では「仕事の時間を短縮したり、ずらしたりする制度」の割合が最も高くなっている（40.8%～52.6%）。「45～49歳」の階級では、「子育てに理解のある職場環境の整備」が最も高く、47.6%となっている。

また、「男女が共に子育てに携わる意識啓発」については、「30歳～34歳」以上の階級では父よりも母の方が高くなっている。（父9.1%～11.6%、母17.5%～21.3%）（表Ⅲ-3-1）

表Ⅲ-3-1 出産をしやすいするために必要なもの〔複数回答〕－性・年齢階級別

	総数	仕事の時間を短縮したり、ずらしたりする制度	育児休業制度の普及	子育てに理解のある職場環境の整備	児童手当など経済的な手当の充実	職場内保育施設の整備	復職できる制度の充実	出産・育児のために退職した人が休暇を取れる制度の充実	子供が病氣やけがをしたときに預けられる保育サービスの整備	夜間・休日を問わず、子供を預けられるサービスの整備	小学生の子供を預けられるサービスの整備	求職中に子供を預けられるサービスの整備	相談の場の整備	出産や子育てに関する情報提供や相談の場の整備	子育て家庭の住宅環境の整備	社会全体で子育てを応援する機運の醸成	男女が共に子育てに携わる意識啓発	子供の遊び場環境の整備	その他	特にない	無回答
総数	100.0 (5,202)	41.8	26.8	42.3	41.3	4.9	27.9	10.8	8.5	3.8	2.7	10.1	5.9	19.5	15.5	2.2	4.5	0.8	1.3		
父	100.0 (2,336)	34.8	30.9	39.7	51.7	4.7	25.3	9.6	11.3	4.9	2.0	7.7	6.8	21.0	10.2	2.5	5.0	1.8	1.3		
29歳以下	100.0 (38)	18.4	39.5	39.5	<u>65.8</u>	5.3	15.8	10.5	15.8	2.6	-	7.9	18.4	23.7	15.8	-	5.3	-	-		
30～34歳	100.0 (249)	37.3	31.3	36.9	<u>64.3</u>	4.0	20.5	8.4	13.7	2.4	0.4	6.8	11.6	19.7	<u>9.2</u>	2.4	5.6	0.4	1.2		
35～39歳	100.0 (518)	34.6	27.0	42.7	<u>54.1</u>	3.7	23.2	11.0	11.8	4.6	1.7	8.3	7.1	19.5	<u>10.4</u>	2.7	4.8	1.9	1.5		
40～44歳	100.0 (663)	32.3	30.3	41.0	<u>49.6</u>	6.5	26.5	9.7	11.3	6.6	2.3	5.7	6.5	21.4	<u>11.3</u>	2.6	6.0	2.0	1.1		
45～49歳	100.0 (538)	35.3	32.0	37.4	<u>50.7</u>	4.6	29.0	10.2	10.4	4.1	2.6	7.8	5.6	23.2	<u>9.5</u>	2.8	4.3	1.9	1.1		
50歳以上	100.0 (330)	39.7	34.8	38.5	<u>42.7</u>	3.3	25.2	7.0	10.0	5.5	2.1	11.5	3.9	19.7	<u>9.1</u>	1.8	3.6	2.4	2.1		
母	100.0 (2,866)	47.5	23.5	44.3	32.8	5.1	29.9	11.7	6.1	2.9	3.2	12.0	5.2	18.2	19.8	2.0	4.2	1.2	1.3		
29歳以下	100.0 (88)	<u>51.1</u>	19.3	42.0	47.7	2.3	23.9	9.1	8.0	-	3.4	14.8	8.0	11.4	14.8	3.4	2.3	3.4	-		
30～34歳	100.0 (371)	<u>52.6</u>	21.8	40.2	43.4	5.1	26.1	7.0	4.3	1.9	3.0	12.9	7.0	18.6	<u>17.5</u>	2.4	6.5	0.3	2.2		
35～39歳	100.0 (741)	<u>50.7</u>	21.9	46.8	35.1	4.5	32.3	10.4	5.7	3.0	2.4	10.5	6.7	19.4	<u>21.3</u>	1.6	3.8	0.4	0.7		
40～44歳	100.0 (820)	<u>45.7</u>	22.8	43.9	33.2	5.9	29.5	12.6	6.1	3.3	3.4	12.2	4.6	19.6	<u>20.7</u>	2.1	4.6	1.0	1.7		
45～49歳	100.0 (601)	44.9	24.8	<u>47.6</u>	24.1	4.2	31.4	14.6	6.8	3.8	4.2	12.1	3.0	14.6	<u>19.8</u>	1.7	3.3	1.5	1.5		
50歳以上	100.0 (245)	<u>40.8</u>	31.4	37.6	25.3	8.2	28.2	13.9	7.8	2.0	3.3	13.5	4.1	20.4	<u>17.6</u>	2.4	2.9	3.7	0.8		

(3) 出産をしやすくするために必要なもの〔複数回答〕—地域別

区部では「子育てに理解のある職場環境の整備」が、市・町・村部では「児童手当など経済的な手当の充実」の割合がそれぞれ最も高い

出産をしやすくするために必要なものを地域別にみると、区部では「子育てに理解のある職場環境の整備」の割合が42.7%で最も高く、次いで「仕事の時間を短縮したり、ずらしたりする制度」が42.1%、「児童手当など経済的な手当の充実」が41.1%となっている。

市・町・村部では「児童手当など経済的な手当の充実」の割合が41.9%で最も高く、次いで「仕事の時間を短縮したり、ずらしたりする制度」と「子育てに理解のある職場環境の整備」が41.2%となっている。(表Ⅲ-3-2)

表Ⅲ-3-2 出産をしやすくするために必要なもの〔複数回答〕—地域別

	総数	仕事の時間を短縮したり、ずらしたりする制度	育児休業制度の普及	子育てに理解のある職場環境の整備	児童手当など経済的な手当の充実	職場内保育施設の整備	復帰できる制度の充実	出産・育児の取れる制度の充実	子供が病気やけがをしたときに預けられる保育サービスの整備	夜間・休日を問わず、子供を預けられる保育サービスの整備	小学生の子供を預けられるサービスの整備	求職中に子供を預けられるサービスの整備	相談の場の整備	出産や子育てに関する情報提供や子育て家庭の住宅環境の整備	子育て家庭の住宅環境の整備	社会全体で子育てを応援する機運の醸成	男女が共に子育てに携わる意識啓発	子供の遊び場環境の整備	その他	特になし	無回答
総数	100.0 (5,202)	41.8	26.8	42.3	41.3	4.9	27.9	10.8	8.5	3.8	2.7	10.1	5.9	19.5	15.5	2.2	4.5	1.4	1.3		
区部	100.0 (3,793)	42.1	25.4	42.7	41.1	5.0	27.6	10.6	8.7	3.9	2.7	9.9	6.5	19.7	15.4	2.2	4.5	1.6	1.2		
区中央部	100.0 (268)	42.2	22.4	37.3	45.5	6.7	26.5	11.9	10.4	4.9	2.2	9.3	6.3	18.3	17.5	2.2	3.7	1.9	1.1		
区南部	100.0 (389)	42.2	23.4	45.2	39.1	3.6	25.4	11.8	9.8	4.6	2.6	7.5	8.0	19.0	16.7	1.5	6.2	2.3	0.5		
区西南部	100.0 (557)	40.0	23.9	44.7	37.9	4.1	28.7	10.4	8.1	4.5	2.7	10.6	5.9	23.0	18.0	2.0	3.6	0.9	1.3		
区西部	100.0 (592)	43.2	25.0	42.4	39.9	4.7	26.4	8.1	9.8	4.7	2.9	9.6	5.9	23.0	15.7	3.9	4.9	1.2	1.2		
区西北部	100.0 (851)	43.6	26.7	42.8	39.1	6.0	27.3	12.3	6.9	3.5	2.5	10.8	7.1	18.8	14.7	2.0	5.4	1.5	1.8		
区東北部	100.0 (555)	40.9	27.4	42.2	45.0	4.9	28.1	8.6	7.7	2.0	2.9	9.7	5.0	16.9	13.2	2.3	4.1	2.5	1.6		
区東部	100.0 (581)	41.5	26.0	42.0	43.9	5.0	29.8	11.0	10.0	4.1	3.1	10.5	7.2	18.4	14.3	1.4	3.3	1.5	0.7		
市・町・村部	100.0 (1,409)	41.2	30.7	41.2	41.9	4.8	28.5	11.3	7.9	3.5	2.6	10.6	4.4	18.8	15.7	2.2	4.5	0.9	1.6		
西多摩	100.0 (90)	45.6	26.7	36.7	42.2	7.8	27.8	10.0	12.2	5.6	1.1	8.9	11.1	18.9	11.1	3.3	4.4	-	-		
南多摩	100.0 (426)	39.2	30.0	43.7	39.4	5.2	27.0	13.6	7.0	3.3	2.3	10.8	4.2	20.4	13.8	3.1	5.4	1.2	1.9		
北多摩西部	100.0 (126)	41.3	33.3	42.9	40.5	4.0	23.0	11.9	9.5	4.8	3.2	15.1	4.0	12.7	15.1	4.0	3.2	0.8	0.8		
北多摩南部	100.0 (419)	38.7	27.7	36.5	46.1	3.8	31.5	9.8	7.9	3.3	2.1	11.9	5.0	20.8	20.0	0.2	4.8	0.7	1.7		
北多摩北部	100.0 (348)	45.4	35.1	44.5	40.5	4.9	29.0	10.3	7.2	3.2	3.4	7.5	2.3	16.7	14.1	2.6	3.7	1.1	1.7		

(4) 出産をしやすいするために必要なもの〔複数回答〕－世帯の年間収入別

世帯収入が「800万円未満」の階級では「児童手当など経済的な手当の充実」の割合が最も高い階級が多く、「1,000万円以上」の階級では「子育てに理解のある職場環境の整備」の割合が最も高い

出産をしやすいするために必要なものを世帯の年間収入別にみると、「200～300万円未満」から「600～800万円未満」までの階級では、「児童手当など経済的な手当の充実」の割合が最も高くなっている（36.9%～51.2%）。「1,000～1,200万円未満」、「1,200～1,500万円未満」、「1,500万円以上」の「1,000万円以上」の階級では、「子育てに理解のある職場環境の整備」の割合が最も高くなっている。（43.5%～45.1%）（表Ⅲ-3-3）

表Ⅲ-3-3 出産をしやすいするために必要なもの〔複数回答〕－世帯の年間収入別

	総数	仕事の時間を短縮したり、 ずらしたりする制度	育児休業制度の普及	子育てに理解のある職場環境の整備	児童手当など経済的な手当の充実	職場内保育施設の整備	復職できる制度の充実	出産・育児のために退職した人が 復帰できる制度の充実	子供が病气やけがをしたときに 休暇を取れる制度の充実	預けられる保育サービスを整備	夜間・休日を問わず、子供を 預けられる保育サービスを整備	小学生の子供を預けられる サービスの整備	求職中に子供を預けられる サービスの整備	相談の場の整備	出産や子育てに関する情報提供や 相談の場の整備	子育て家庭の住宅環境の整備	社会全体で子育てを 応援する機運の醸成	男女が共に子育てに携わる意識啓発	子供の遊び場環境の整備	その他	特にな い	無 回 答
総数	100.0 (5,202)	41.8	26.8	42.3	41.3	4.9	27.9	10.8	8.5	3.8	2.7	10.1	5.9	19.5	15.5	2.2	4.5	1.4	1.3			
200万円未満	100.0 (191)	35.1	24.1	40.8	40.3	5.2	30.9	15.2	9.9	4.7	5.2	11.5	8.4	13.1	12.6	1.0	1.6	3.7	4.7			
200～300万円未満	100.0 (130)	36.9	33.1	34.6	<u>36.9</u>	6.2	31.5	14.6	9.2	3.1	4.6	8.5	5.4	12.3	11.5	2.3	3.8	5.4	1.5			
300～400万円未満	100.0 (291)	39.5	30.6	35.4	<u>51.2</u>	6.9	30.6	8.6	9.6	2.1	3.4	10.0	7.6	14.4	12.4	0.7	3.8	0.3	1.4			
400～500万円未満	100.0 (352)	43.2	29.3	39.8	<u>46.0</u>	4.0	28.4	13.9	7.1	3.4	2.8	9.4	8.0	15.3	12.8	3.7	3.7	1.1	1.1			
500～600万円未満	100.0 (507)	40.8	27.2	39.3	<u>46.9</u>	5.3	26.4	15.0	8.3	4.3	4.3	9.3	5.7	17.4	13.2	2.2	3.4	1.4	1.0			
600～800万円未満	100.0 (976)	42.7	29.8	43.5	<u>44.2</u>	3.3	25.1	11.9	8.1	2.5	2.4	8.9	5.9	17.5	15.1	3.0	4.3	1.2	1.3			
800～1,000万円未満	100.0 (928)	45.5	27.3	44.5	40.8	5.0	28.8	9.4	6.6	4.2	2.6	10.3	6.6	18.4	14.9	2.3	5.0	1.0	1.0			
1,000～1,200万円未満	100.0 (699)	42.1	24.6	<u>43.5</u>	40.3	5.7	27.3	9.2	8.3	3.7	1.6	11.3	4.9	22.7	17.5	1.7	6.2	1.1	0.6			
1,200～1,500万円未満	100.0 (481)	41.4	24.7	<u>45.1</u>	34.5	3.7	30.4	7.1	9.1	4.8	2.7	9.1	4.8	26.0	19.1	1.9	5.6	1.2	1.5			
1,500万円以上	100.0 (531)	40.1	22.4	<u>44.1</u>	33.9	6.6	26.9	9.0	11.7	5.1	1.7	10.4	4.1	27.1	19.4	1.7	4.5	2.3	0.8			

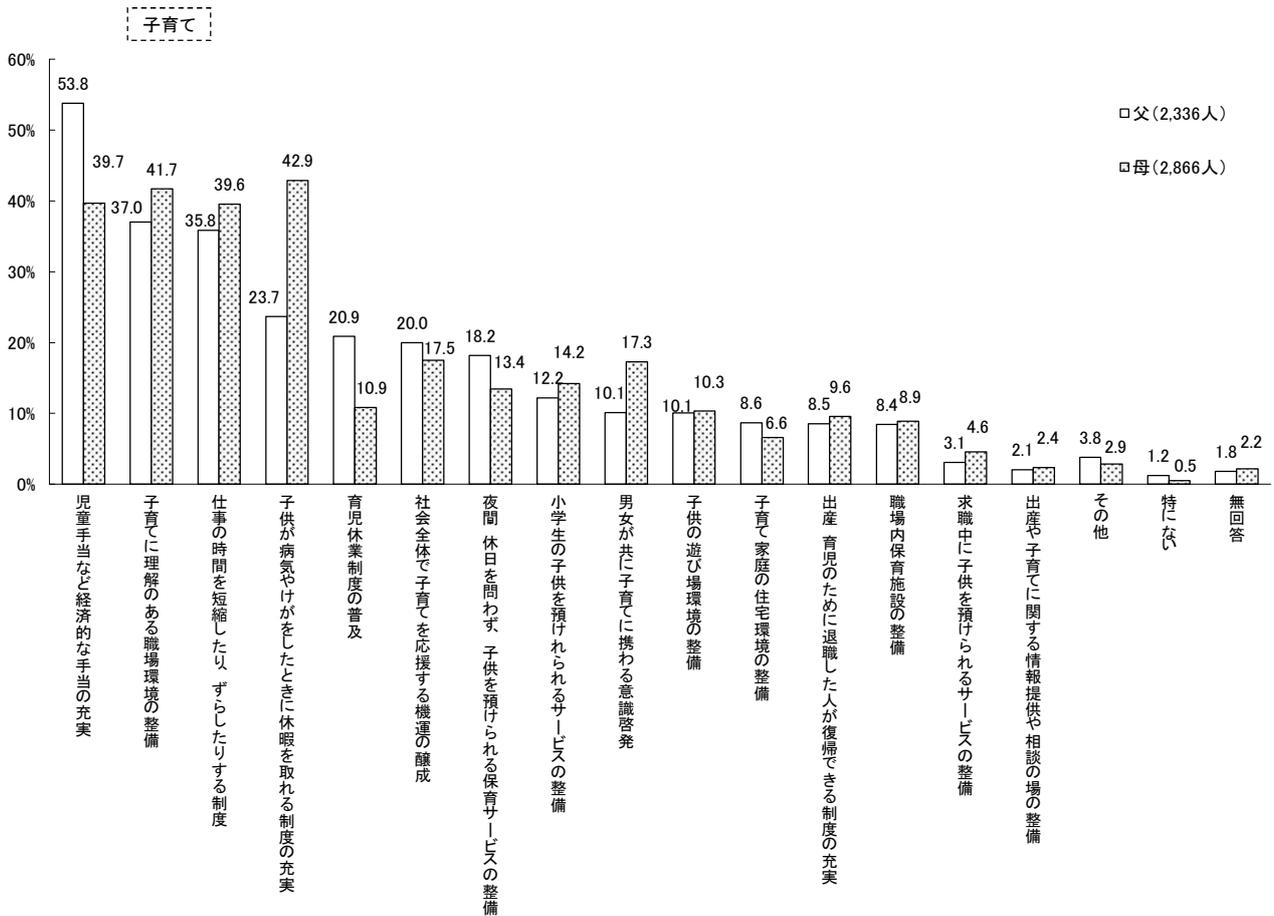
2 子育てをしやすくするために必要なもの

(1) 子育てをしやすくするために必要なもの〔複数回答〕

父は「児童手当など経済的な手当の充実」、母は「子供が病気やけがをしたときに休暇を取れる制度の充実」の割合が、それぞれ最も高い

対象者全員に子育てをしやすくするためには何が必要か聞いたところ、父は「児童手当など経済的な手当の充実」の割合が53.8%で最も高く、母（39.7%）と比べて14.1ポイント高くなっている。母は「子供が病気やけがをしたときに休暇を取れる制度の充実」の割合が42.9%で最も高く、父（23.7%）と比べて19.2ポイント高くなっている。（図Ⅲ-3-2）

図Ⅲ-3-2 子育てをしやすくするために必要なもの〔複数回答〕



(2) 子育てをしやすいするために必要なもの〔複数回答〕－性・年齢階級別

「小学生の子供を預けられるサービスの整備」は、年齢層が上がるにつれて割合が高く、「子育て家庭の住宅環境の整備」は、年齢層が上がるにつれて割合が低い

子育てをしやすいするために必要なものを性・年齢階級別にみると、「小学生の子供を預けられるサービスの整備」については、父母ともに年齢層が上がるにつれて割合が高くなっており、最も低いのが父は「30～34歳」で3.2%、母は「29歳以下」で5.7%となっている。一方、最も高いのは父母ともに「50歳以上」の階層で、父が15.5%、母が17.1%となっている。

また、「子育て家庭の住宅環境の整備」については、年齢層が上がるにつれて割合が低くなっており、父母ともに「29歳以下」の階層が最も高く、父が21.1%、母が13.6%となっている。一方、最も低いのは父が「50歳以上」、母が「45歳～49歳」で、それぞれ5.5%、4.5%となっている。(表Ⅲ-3-4)

表Ⅲ-3-4 子育てをしやすいするために必要なもの〔複数回答〕－性・年齢階級別

	総数	仕事の時間を短縮したり、	育児休業制度の普及	子育てに理解のある職場環境の整備	児童手当など経済的な手当の充実	職場内保育施設の整備	出産・育児のために退職した人が復帰できる制度の充実	子供が病气やけがをしたときに休暇を取れる制度の充実	夜間・休日を問わず、子供を預けられる保育サービスの整備	小学生の子供を預けられるサービスの整備	求職中に子供を預けられるサービスの整備	相談の場の整備	出産や子育てに関する情報提供や	子育て家庭の住宅環境の整備	社会全体で子育てを応援する機運の醸成	男女が共に子育てに携わる意識啓発	子供の遊び場環境の整備	その他	特になし	無回答
総数	100.0 (5,202)	37.9	15.4	39.6	46.0	8.7	9.1	34.3	15.6	13.3	3.9	2.2	7.5	18.6	14.1	10.2	3.3	0.8	2.0	
父	100.0 (2,336)	35.8	20.9	37.0	53.8	8.4	8.5	23.7	18.2	12.2	3.1	2.1	8.6	20.0	10.1	10.1	3.8	1.2	1.8	
29歳以下	100.0 (38)	26.3	28.9	34.2	73.7	10.5	0.0	26.3	23.7	5.3	2.6	-	<u>21.1</u>	10.5	10.5	13.2	5.3	-	-	
30～34歳	100.0 (249)	36.1	25.7	38.2	64.3	6.8	6.8	23.3	20.9	<u>3.2</u>	2.0	1.6	10.8	16.9	8.0	10.8	3.2	0.4	2.4	
35～39歳	100.0 (518)	34.6	19.3	35.7	56.0	7.5	9.7	26.3	14.1	13.1	2.5	1.5	9.8	20.7	10.6	11.0	3.7	1.2	1.7	
40～44歳	100.0 (663)	35.1	20.1	37.7	49.9	11.0	8.6	23.5	17.6	13.7	2.6	2.1	9.0	19.0	9.8	9.4	5.4	1.4	1.8	
45～49歳	100.0 (538)	37.5	19.1	36.8	54.1	7.1	9.5	22.7	20.3	12.1	4.1	2.8	7.1	21.7	10.2	9.7	3.0	1.5	1.7	
50歳以上	100.0 (330)	37.3	23.3	37.6	47.3	7.9	7.3	21.5	19.4	<u>15.5</u>	4.2	2.1	<u>5.5</u>	21.5	11.2	9.7	2.4	1.5	2.1	
母	100.0 (2,886)	39.6	10.9	41.7	39.7	8.9	9.6	42.9	13.4	14.2	4.6	2.4	6.6	17.5	17.3	10.3	2.9	0.5	2.2	
29歳以下	100.0 (88)	35.2	15.9	29.5	64.8	10.2	10.2	39.8	12.5	<u>5.7</u>	5.7	2.3	<u>13.6</u>	17.0	18.2	5.7	1.1	1.1	-	
30～34歳	100.0 (371)	36.4	10.2	38.5	48.5	10.2	9.4	44.2	14.0	11.1	5.4	1.6	9.2	15.4	14.6	11.6	4.6	0.3	2.2	
35～39歳	100.0 (741)	39.5	10.5	44.7	45.2	9.2	8.9	42.4	14.3	11.7	4.5	1.3	7.8	18.5	16.7	10.5	2.3	0.1	1.8	
40～44歳	100.0 (820)	42.2	11.6	42.7	33.5	7.3	10.0	42.9	12.0	16.0	4.6	2.2	5.6	19.3	18.3	11.0	2.9	0.4	2.6	
45～49歳	100.0 (601)	41.4	9.8	42.4	32.9	7.8	10.0	42.6	13.5	16.8	4.5	2.5	<u>4.5</u>	16.1	18.1	9.3	2.5	1.0	3.0	
50歳以上	100.0 (245)	32.7	11.0	36.7	37.6	13.5	9.4	44.1	15.1	<u>17.1</u>	3.3	6.9	4.9	15.1	17.1	9.8	3.3	0.8	1.2	

(3) 子育てをしやすくするために必要なもの〔複数回答〕－地域別

「児童手当など経済的な手当の充実」の割合は区部よりも市・町・村部の方が高い

子育てをしやすくするために必要なものを地域別にみると、「子供が病気やけがをしたときに休暇を取れる制度の充実」の割合は、区部が33.6%、市・町・村部が36.0%で、市・町・村部の方が2.4ポイント高くなっている。特に西多摩では42.2%、北多摩西部では43.7%と高くなっている。

一方、「夜間・休日を問わず、子供を預けられる保育サービスの整備」の割合は、区部が16.3%、市・町・村部が13.6%で、区部の方が2.7ポイント高くなっている。特に区南部及び区東部では17.7%、区西南部では17.4%と高くなっている。(表Ⅲ-3-5)

表Ⅲ-3-5 子育てをしやすくするために必要なもの〔複数回答〕－地域別

	総数	仕事の時間を短縮したり、 ずらしたりする制度	育児休業制度の普及	子育てに理解のある職場環境の整備	児童手当など経済的な手当の充実	職場内保育施設の整備	出産・育児のために退職した人が 復帰できる制度の充実	子供が病気やけがをしたときに 休暇を取れる制度の充実	夜間・休日を問わず、子供を 預けられる保育サービスの整備	小学生の子供を預けられる サービスの整備	求職中に子供を預けられる サービスの整備	出産や子育てに関する情報提供や 相談の場の整備	子育て家庭の住宅環境の整備	社会全体で子育てを 応援する機運の醸成	男女が共に子育てに携わる意識啓発	子供の遊び場環境の整備	その他	特にな い	無回 答
総数	100.0 (5,202)	37.9	15.4	39.6	46.0	8.7	9.1	34.3	15.6	13.3	3.9	2.2	7.5	18.6	14.1	10.2	3.3	0.8	2.0
区部	100.0 (3,793)	37.3	14.9	39.5	45.6	8.5	9.2	33.6	16.3	13.6	3.8	2.1	8.1	19.0	14.2	10.3	3.3	0.9	2.2
区中央部	100.0 (268)	34.7	14.6	42.5	42.2	9.3	9.3	34.3	15.3	19.8	2.6	1.5	9.0	17.2	12.3	12.3	1.9	1.5	1.5
区南部	100.0 (389)	38.8	15.2	40.1	44.2	8.7	10.0	28.0	17.7	14.9	3.9	2.3	9.0	19.8	12.3	10.5	3.1	0.8	1.8
区西南部	100.0 (557)	38.2	11.8	39.9	45.2	7.7	8.8	31.6	17.4	13.6	3.4	2.5	7.2	23.2	16.9	8.3	2.3	0.7	2.3
区西部	100.0 (592)	36.8	15.9	39.9	44.4	7.8	8.1	31.6	16.2	13.2	3.7	2.0	8.1	21.5	16.9	13.9	3.5	0.3	1.7
区西北部	100.0 (851)	37.4	16.0	38.9	45.0	9.2	9.3	34.8	15.6	12.8	3.9	2.1	8.7	18.4	13.3	9.3	4.2	1.2	2.4
区東北部	100.0 (555)	38.7	15.9	38.0	49.4	8.8	7.6	36.8	14.1	12.1	5.6	1.6	6.3	15.0	12.1	10.5	2.5	1.6	2.7
区東部	100.0 (581)	35.5	14.1	39.1	47.2	8.3	11.4	36.3	17.7	12.7	2.9	2.2	9.1	17.4	14.5	8.8	4.1	0.5	2.4
市・町・村部	100.0 (1,409)	39.5	16.7	40.0	47.0	9.2	8.9	36.0	13.6	12.6	4.2	2.6	5.8	17.6	13.6	10.0	3.3	0.6	1.6
西多摩	100.0 (90)	28.9	12.2	45.6	50.0	8.9	3.3	42.2	15.6	13.3	3.3	5.6	8.9	12.2	14.4	12.2	4.4	-	-
南多摩	100.0 (426)	41.1	15.0	41.1	45.8	7.3	9.6	35.2	14.8	11.7	4.9	2.1	5.4	18.5	15.5	9.4	4.0	0.7	1.6
北多摩西部	100.0 (126)	41.3	22.2	38.9	40.5	15.1	11.1	43.7	13.5	14.3	1.6	2.4	4.8	7.9	9.5	14.3	4.0	-	-
北多摩南部	100.0 (419)	38.4	15.3	39.1	48.2	8.6	8.4	30.1	13.6	14.3	2.1	3.3	7.2	20.5	14.8	9.8	2.6	0.7	2.6
北多摩北部	100.0 (348)	41.1	19.5	38.5	48.6	10.1	9.5	39.7	11.8	10.6	6.9	1.7	4.3	17.8	11.2	8.9	2.6	0.6	1.4

(4) 子育てをしやすくするために必要なもの〔複数回答〕－世帯類型（母子・父子世帯）別

両親世帯、ひとり親世帯ともに「児童手当など経済的な手当の充実」が最も高く4割超

子育てをしやすくするために必要なものを世帯類型別（母子・父子世帯）別にみると、両親世帯、ひとり親世帯ともに「児童手当など経済的な手当の充実」の割合が最も高くなっている（46.1%、45.4%）。

ひとり親世帯について、母子世帯と父子世帯別にみると、母子世帯では「児童手当など経済的な手当の充実」の割合が44.6%で最も高く、次いで、「子供が病気やけがをしたときに休暇を取れる制度の充実」が42.9%となっている。父子世帯では、「児童手当など経済的な手当の充実」の割合が54.3%で最も高く、次いで「子育てに理解のある職場環境の整備」が42.9%となっている。（表Ⅲ-3-6）

表Ⅲ-3-6 子育てをしやすくするために必要なもの〔複数回答〕

－世帯類型（母子・父子世帯）別

	総数	仕事の時間を短縮したり、	育児休業制度の普及	子育てに理解のある職場環境の整備	児童手当など経済的な手当の充実	職場内保育施設の整備	復帰できる制度の充実	出産・育児のために退職した人が	子供が病気やけがをしたときに	休暇を取れる制度の充実	夜間・休日を問わず、子供を預けられる保育サービスの整備	小学生の子供を預けられるサービスの整備	求職中に子供を預けられるサービスの整備	相談の場や子育てに関する情報提供や	出産や子育てに関する情報提供や	子育て家庭の住宅環境の整備	応援する機運の醸成	社会全体で子育てを	男女が共に子育てに携わる意識啓発	子供の遊び場環境の整備	その他	特にな	無回答
総数	100.0 (5,202)	37.9	15.4	39.6	46.0	8.7	9.1	34.3	15.6	13.3	3.9	2.2	7.5	18.6	14.1	10.2	3.3	0.8	2.0				
両親世帯	100.0 (4,766)	38.1	15.9	39.5	46.1	8.6	9.2	33.7	15.4	13.2	3.9	2.2	7.3	19.1	14.3	10.5	3.3	0.6	1.9				
ひとり親世帯	100.0 (436)	35.3	9.9	40.4	45.4	10.1	8.3	40.8	17.0	14.7	3.9	2.1	9.4	13.8	11.7	6.7	2.8	0.7	3.4				
母子世帯	100.0 (401)	35.9	8.7	39.7	44.6	10.5	8.5	42.9	16.7	15.0	4.0	2.2	9.7	13.2	11.7	6.7	2.5	0.7	3.5				
父子世帯	100.0 (35)	28.6	22.9	42.9	54.3	5.7	5.7	17.1	20.0	11.4	2.9	0.0	5.7	20.0	11.4	5.7	5.7	-	2.9				

(5) 子育てをしやすくするために必要なもの〔複数回答〕－世帯の年間収入別

「1,000～1,200万円未満」以下の各階級では、「児童手当など経済的な手当の充実」の割合が最も高い

子育てをしやすくするために必要なものを世帯の年間収入別にみると、「1,000～1,200万円未満」以下の各階級では、「児童手当など経済的な手当の充実」の割合が最も高く（43.2%～55.1%）、「1,200～1,500万円未満」の階級では、「仕事の時間を短縮したり、ずらしたりする制度」の割合が45.7%で最も高く、「1,500万円未満」以上の階級では、「子育てに理解のある職場環境の整備」の割合が44.6%で最も高くなっている。（表Ⅲ-3-7）

表Ⅲ-3-7 子育てをしやすくするために必要なもの〔複数回答〕－世帯の年間収入別

	総数	仕事の時間を短縮したり、ずらしたりする制度	育児休業制度の普及	子育てに理解のある職場環境の整備	児童手当など経済的な手当の充実	職場内保育施設の整備	復職できる制度の充実	出産・育児のために退職した人が休暇を取れる制度の充実	子供が病气やけがをしたときに預けられる保育サービスの整備	夜間・休日を問わず、子供を預けられるサービスの整備	小学生の子供を預けられるサービスの整備	求職中に子供を預けられるサービスの整備	相談の場や子育てに関する情報提供や	出産や子育てに関する情報提供や	子育て家庭の住宅環境の整備	社会全体で子育てを応援する機運の醸成	男女が共に子育てに携わる意識啓発	子供の遊び場環境の整備	その他	特になし	無回答
総数	100.0 (5,202)	37.9	15.4	39.6	46.0	8.7	9.1	34.3	15.6	13.3	3.9	2.2	7.5	18.6	14.1	10.2	3.3	0.8	2.0		
200万円未満	100.0 (191)	33.5	9.4	41.4	<u>50.8</u>	7.3	8.4	41.9	16.2	16.8	3.7	1.6	12.0	12.0	9.4	9.9	0.5	-	3.1		
200～300万円未満	100.0 (130)	28.5	19.2	36.9	<u>54.6</u>	9.2	10.8	36.9	15.4	9.2	2.3	4.6	10.8	12.3	10.0	6.9	4.6	2.3	2.3		
300～400万円未満	100.0 (291)	34.7	18.9	37.5	<u>53.3</u>	7.2	7.9	36.1	14.4	11.0	4.1	3.1	12.7	15.1	12.0	7.6	2.7	0.3	2.4		
400～500万円未満	100.0 (352)	34.4	17.0	35.5	<u>55.1</u>	8.5	7.7	39.8	12.5	8.8	5.4	1.7	9.4	16.5	11.1	12.5	3.4	0.9	2.0		
500～600万円未満	100.0 (507)	35.7	15.6	38.9	<u>51.9</u>	8.9	8.5	37.7	12.0	15.0	5.5	2.2	7.5	16.0	10.3	9.1	2.4	0.4	2.4		
600～800万円未満	100.0 (976)	36.0	18.2	39.2	<u>50.5</u>	7.4	7.3	36.2	15.0	10.0	4.6	1.6	7.4	17.0	13.3	11.5	3.7	0.9	1.8		
800～1,000万円未満	100.0 (928)	40.2	16.5	39.5	<u>46.3</u>	9.7	9.5	35.5	13.1	12.6	4.3	2.3	7.8	17.0	15.6	11.3	3.2	0.8	1.5		
1,000～1,200万円未満	100.0 (699)	39.6	13.4	39.2	<u>43.2</u>	9.4	10.9	32.0	16.2	14.2	2.9	3.0	6.6	21.5	14.9	9.9	4.1	0.4	2.0		
1,200～1,500万円未満	100.0 (481)	<u>45.7</u>	11.6	42.0	36.0	7.5	9.4	29.5	18.5	16.8	1.9	1.7	5.4	25.8	20.6	7.5	3.7	0.6	1.0		
1,500万円以上	100.0 (531)	39.5	12.4	<u>44.6</u>	31.5	9.4	12.2	25.8	23.0	19.0	2.6	1.9	4.7	23.7	15.8	9.4	3.0	1.7	2.1		

3 子育てをされていて日ごろ感じること

(1) 子育てをされていて日ごろ感じること

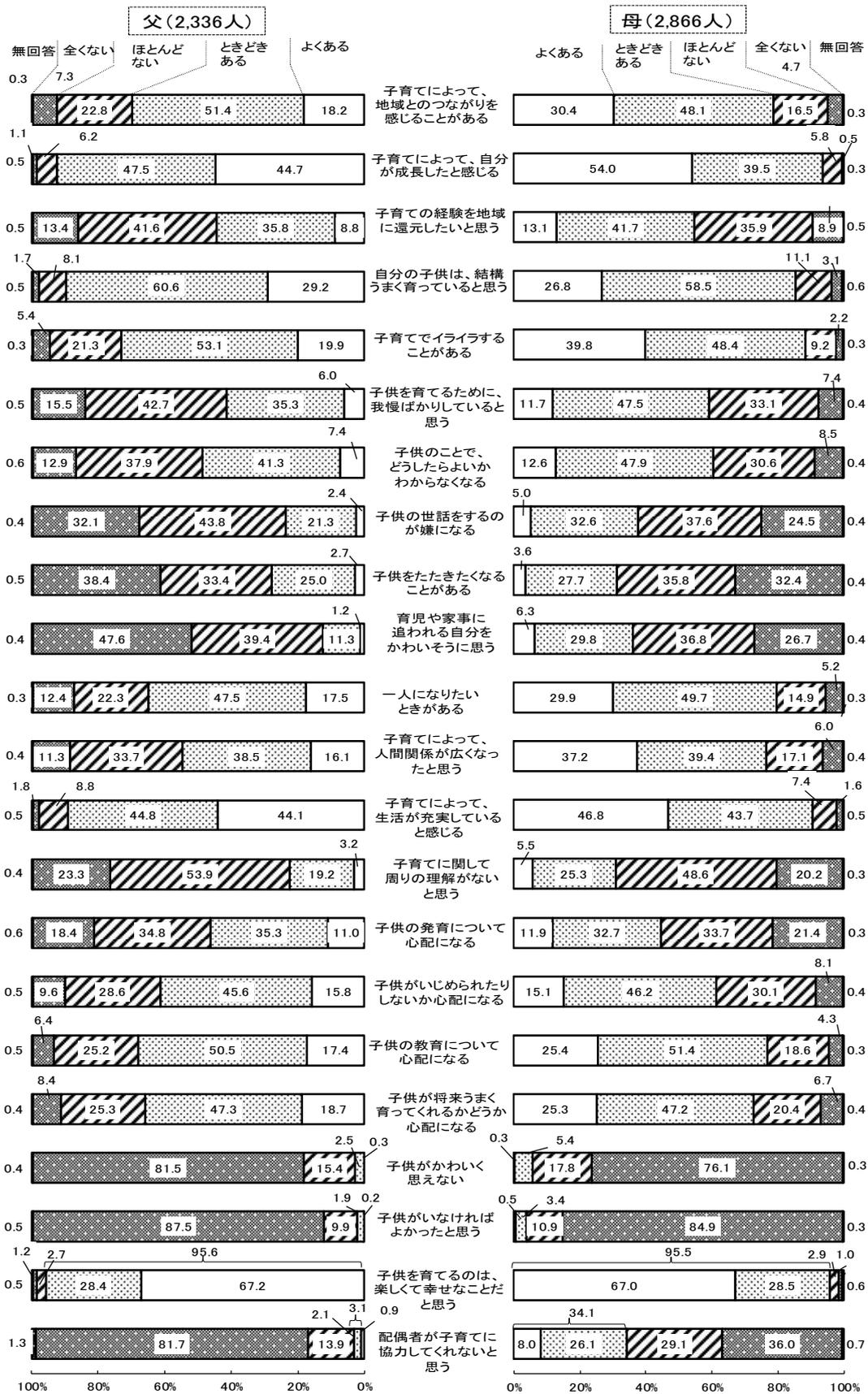
「配偶者が子育てに協力してくれないと思う」について「よくある」、「ときどきある」を合わせた割合は、母は3割超

対象者全員に子育てをされていて日ごろ感じることを聞いたところ、「よくある」、「ときどきある」を合わせた割合が最も高いのは、父母ともに「子供を育てるのは楽しくて幸せなことだと思う」で、父は95.6%、母は95.5%となっている。

母は、「子育てでイライラすることがある」について「よくある」が39.8%、「子育てによって人間関係が広がったと思う」が37.2%と、父（19.9%、16.1%）よりそれぞれ19.9ポイント、21.1ポイント高くなっている。

また、「配偶者が子育てに協力してくれないと思う」については、「よくある」、「ときどきある」を合わせた割合は、母が34.1%、父は3.1%で、母が31.0ポイント高くなっている。(図Ⅲ-3-3)

図Ⅲ-3-3 子育てをしていて日ごろ感じること



(注) 「配偶者が子育てに協力してくれないと思う」については、両親世帯のみ集計対象としている。

(総数＝父 2,301人、母 2,465人)

(2) 子育てをしていて日ごろ感じること－相談相手の有無別

「子育てによって、生活が充実していると感じる」について、「よくある」と回答した割合は、父母ともに相談相手が「いる」の方が「いないので欲しい」よりも高い

子育てをしていて日ごろ感じることを相談相手の有無別にみると、「子育てによって、生活が充実していると感じる」ことが、「よくある」人の割合は、父母ともに、相談相手が「いる」方が「いないので欲しい」よりも高くなっている（父 47.0%、26.5%、母 48.1%、22.6%）。

「子供の教育について心配になる」ことが「よくある」人の割合は、父母ともに、相談相手が「いないので欲しい」の方が「いる」よりも高くなっている（父 35.3%、17.2%、母 50.0%、24.4%）。

相談相手が「いないので欲しい」人では、「子育てでイライラすることがある」ことが「よくある」母は 47.6%で、父の 29.4%に比べて 18.2 ポイント高くなっている。（表Ⅲ-3-8）

表Ⅲ-3-8 子育てをしていて日ごろ感じること－相談相手の有無別

	子育てによって、生活が充実していると感じる						子供の教育について心配になる						子育てでイライラすることがある					
	総数	よくある	あときどき	なほほとんど	全くない	無回答	総数	よくある	あときどき	なほほとんど	全くない	無回答	総数	よくある	あときどき	なほほとんど	全くない	無回答
総数	100.0 (5,202)	45.6	44.2	8.0	1.7	0.5	100.0 (5,202)	21.8	51.0	21.5	5.3	0.4	100.0 (5,202)	30.9	50.5	14.7	3.6	0.3
父	100.0 (2,336)	44.1	44.8	8.8	1.8	0.5	100.0 (2,336)	17.4	50.5	25.2	6.4	0.5	100.0 (2,336)	19.9	53.1	21.3	5.4	0.3
いる	100.0 (1,953)	<u>47.0</u>	44.2	7.3	1.3	0.2	100.0 (1,953)	<u>17.2</u>	51.7	25.1	5.7	0.3	100.0 (1,953)	20.0	54.1	20.4	5.4	0.2
いないので欲しい	100.0 (102)	<u>26.5</u>	48.0	20.6	3.9	1.0	100.0 (102)	<u>35.3</u>	52.0	9.8	2.9	-	100.0 (102)	<u>29.4</u>	51.0	17.6	2.0	-
必要ない	100.0 (258)	31.0	47.7	15.5	4.7	1.2	100.0 (258)	12.8	40.7	31.8	14.0	0.8	100.0 (258)	16.3	46.1	30.6	6.6	0.4
母	100.0 (2,866)	46.8	43.7	7.4	1.6	0.5	100.0 (2,866)	25.4	51.4	18.6	4.3	0.3	100.0 (2,866)	39.8	48.4	9.2	2.2	0.3
いる	100.0 (2,701)	<u>48.1</u>	43.8	6.8	1.0	0.3	100.0 (2,701)	<u>24.4</u>	52.1	19.0	4.4	0.3	100.0 (2,701)	39.9	48.5	9.4	2.1	0.2
いないので欲しい	100.0 (84)	<u>22.6</u>	45.2	16.7	15.5	-	100.0 (84)	<u>50.0</u>	38.1	9.5	2.4	-	100.0 (84)	<u>47.6</u>	47.6	4.8	-	-
必要ない	100.0 (58)	31.0	37.9	20.7	10.3	-	100.0 (58)	32.8	44.8	15.5	6.9	-	100.0 (58)	27.6	53.4	12.1	6.9	-

(注) 相談相手の有無については、次頁以降で詳細を記述する。

4 相談相手

(1) 相談相手の有無及び相談相手〔複数回答〕

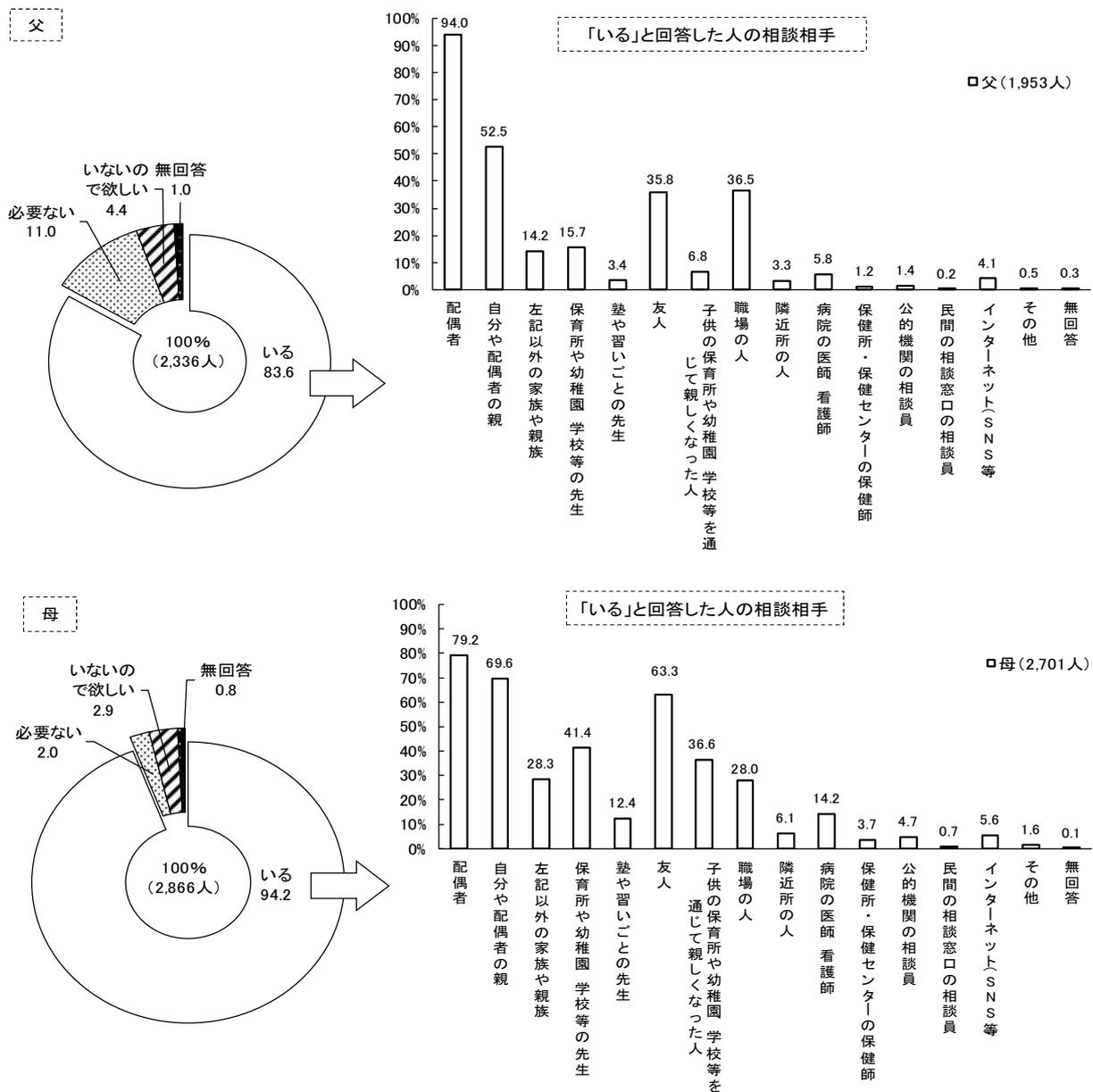
「いる」の割合は、父は8割超、母は9割超で、相談相手は「配偶者」の割合が最も高い

対象者全員に子供についての悩みや心配事を相談する相手がいるかどうか聞いたところ、「いる」の割合は、父が83.6%、母は94.2%となっている。

また、「いる」と回答した父母(4,654人)に、誰に相談しているか聞いたところ、父母ともに、「配偶者」の割合が最も高く(94.0%、79.2%)、次いで「自分や配偶者の親」(52.5%、69.6%)となっている。

「友人」の割合は、母が63.3%、父は35.8%で、母が27.5ポイント高く、「職場の人」の割合は父が36.5%、母が28.0%で、父が8.5ポイント高くなっている。(図Ⅲ-3-4)

図Ⅲ-3-4 相談相手の有無及び相談相手〔複数回答〕



(2) 相談相手〔複数回答〕－性・年齢階級別

父は全ての階級で、母は「45～49歳」以下の全ての階級で「配偶者」の割合が最も高い

相談相手を性・年齢階級別にみると、父は全ての階級において、「配偶者」の割合が最も高くなっている（91.4%～95.6%）。母は「45～49歳」以下の全ての階級において、「配偶者」の割合が最も高いが（76.3%～88.8%）、「50歳以上」では「友人」が最も高く、60.8%となっている。（表Ⅲ-3-9）

表Ⅲ-3-9 相談相手〔複数回答〕－性・年齢階級別

	総数	配偶者	自分や配偶者の親	左記以外の家族や親族	保育所や幼稚園、学校等の先生	塾や習いごとの先生	友人	子供の保育所や幼稚園、学校等を通じて親しくなった人	職場の人	隣近所の人	病院の医師、看護師	保健所・保健センターの保健師	公的機関の相談員	民間の相談窓口の相談員	インターネット（掲示板等）	その他	無回答
総数	100.0 (4,654)	85.4	62.4	22.4	30.6	8.6	51.8	24.1	31.6	4.9	10.7	2.6	3.4	0.5	4.9	1.1	0.2
父	100.0 (1,953)	94.0	52.5	14.2	15.7	3.4	35.8	6.8	36.5	3.3	5.8	1.2	1.4	0.2	4.1	0.5	0.3
29歳以下	100.0 (35)	<u>91.4</u>	74.3	22.9	8.6	-	31.4	-	45.7	5.7	2.9	-	-	-	2.9	-	2.9
30～34歳	100.0 (216)	<u>94.4</u>	61.6	14.4	14.8	0.5	40.7	3.7	41.2	0.9	4.6	1.9	-	-	5.1	0.5	0.5
35～39歳	100.0 (427)	<u>95.6</u>	59.5	15.2	18.3	1.9	37.7	4.9	39.8	3.5	6.6	1.2	1.6	0.5	5.2	0.2	-
40～44歳	100.0 (561)	<u>94.5</u>	52.0	13.4	15.3	4.3	36.7	7.0	38.9	3.2	5.3	1.6	1.6	0.4	4.1	0.5	0.4
45～49歳	100.0 (456)	<u>92.1</u>	46.7	14.3	14.3	4.8	32.7	9.4	30.0	3.3	5.7	0.7	2.0	0.0	3.5	0.4	0.2
50歳以上	100.0 (258)	<u>93.8</u>	41.9	12.8	16.7	4.7	32.9	8.5	31.8	4.7	7.0	1.2	1.2	0.0	2.7	0.8	0.4
母	100.0 (2,701)	79.2	69.6	28.3	41.4	12.4	63.3	36.6	28.0	6.1	14.2	3.7	4.7	0.7	5.6	1.6	0.1
29歳以下	100.0 (80)	<u>87.5</u>	88.8	20.0	36.3	5.0	55.0	11.3	27.5	3.8	17.5	7.5	5.0	1.3	12.5	1.3	-
30～34歳	100.0 (349)	<u>88.8</u>	80.8	26.1	49.9	5.4	55.9	27.5	24.1	3.7	18.3	7.2	4.9	0.9	9.2	1.4	0.3
35～39歳	100.0 (702)	<u>85.3</u>	74.4	28.6	47.0	11.4	64.2	38.5	27.8	5.3	13.8	4.6	5.0	0.6	7.4	1.0	-
40～44歳	100.0 (788)	<u>78.2</u>	70.3	27.7	44.3	15.2	65.0	38.8	30.8	8.2	14.1	2.7	4.3	0.9	3.9	2.3	0.1
45～49歳	100.0 (565)	<u>76.3</u>	61.9	29.6	31.3	14.2	66.5	42.3	28.5	6.7	12.0	1.9	4.1	0.5	2.5	0.9	0.2
50歳以上	100.0 (217)	52.5	46.1	33.2	26.7	14.3	<u>60.8</u>	31.3	24.0	4.1	13.4	1.8	6.9	0.9	5.1	2.8	0.5

(3) 相談相手〔複数回答〕－世帯類型（母子・父子世帯）別

両親世帯では「配偶者」、ひとり親世帯では「友人」の割合が最も高い

相談相手を世帯類型（母子・父子世帯）別にみると、両親世帯では、「配偶者」の割合が92.4%で最も高く、次いで、「自分や配偶者の親」が63.3%、「友人」が50.5%となっている。

ひとり親世帯では、「友人」の割合が67.1%で最も高く、次いで「自分や配偶者の親」が52.2%、「『配偶者』、『自分や配偶者の親』以外の家族や親族」が39.8%となっている。（表Ⅲ-3-10）

表Ⅲ-3-10 相談相手〔複数回答〕－世帯類型（母子・父子世帯）別

	総数	配偶者	自分や配偶者の親	左記以外の家族や親族	保育所や幼稚園、学校等の先生	塾や習いごとの先生	友人	子供の保育所や幼稚園、学校等を通じて親しくなった人	職場の人	隣近所の人	病院の医師、看護師	保健所・保健センターの保健師	公的機関の相談員	民間の相談窓口の相談員	インターネット（SNS等）	その他	無回答
総数	100.0 (4,654)	85.4	62.4	22.4	30.6	8.6	51.8	24.1	31.6	4.9	10.7	2.6	3.4	0.5	4.9	1.1	0.2
両親世帯	100.0 (4,292)	<u>92.4</u>	<u>63.3</u>	20.9	31.2	8.4	<u>50.5</u>	24.0	30.9	4.9	10.6	2.6	3.1	0.5	4.8	0.9	0.2
ひとり親世帯	100.0 (362)	3.3	<u>52.2</u>	<u>39.8</u>	22.9	11.3	<u>67.1</u>	25.4	39.5	5.0	11.9	3.0	6.1	0.8	6.1	3.9	0.6
母子世帯	100.0 (341)	3.2	51.9	40.5	23.8	12.0	68.9	27.0	39.6	4.7	12.3	3.2	6.2	0.9	6.5	3.5	0.6
父子世帯	100.0 (21)	4.8	57.1	28.6	9.5	-	38.1	-	38.1	9.5	4.8	-	4.8	-	-	9.5	-

(4) 相談相手の有無及び誰に相談したいか〔複数回答〕

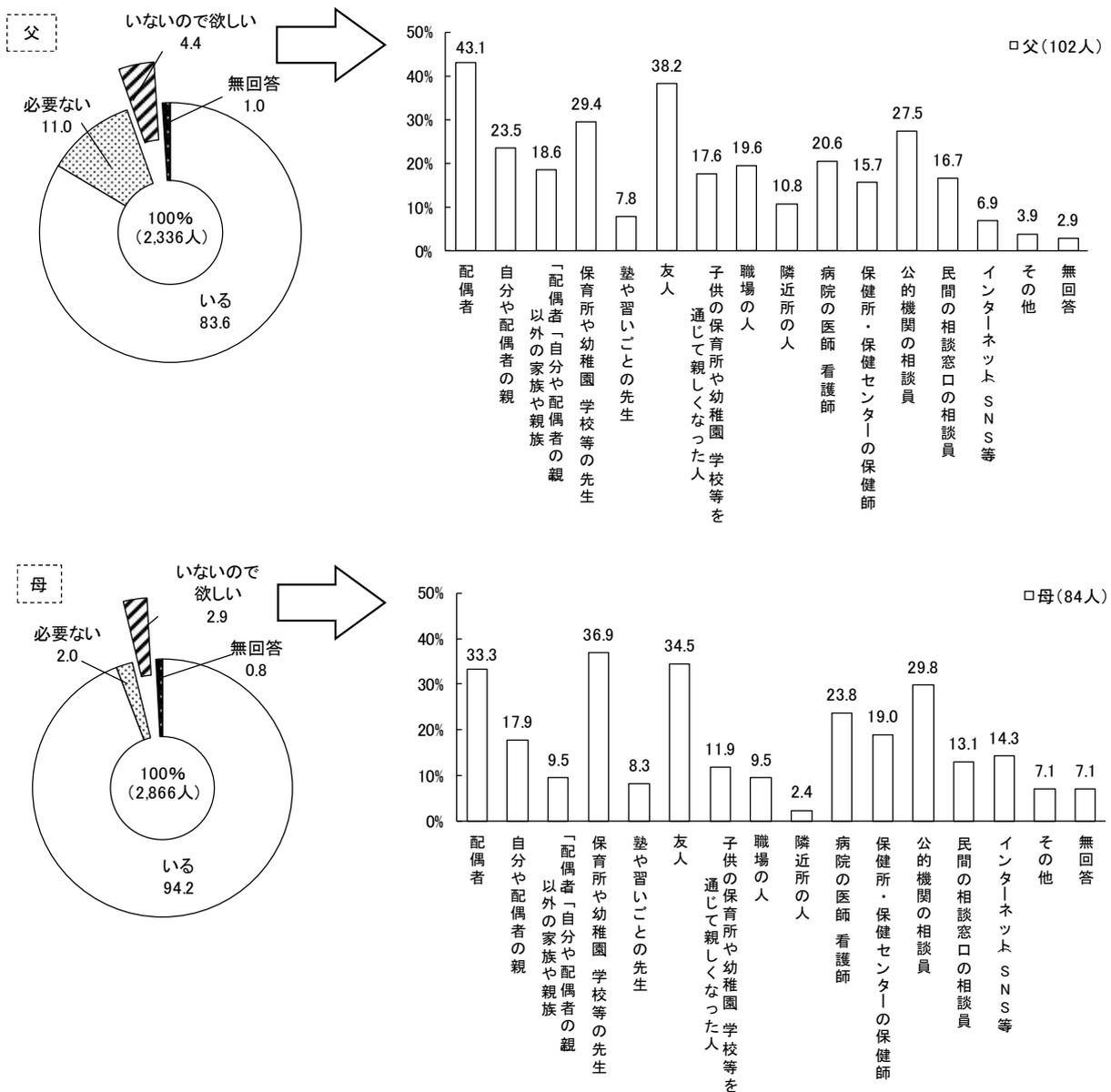
父は「配偶者」、母は「保育所や幼稚園、学校等の先生」の割合が最も高い

対象者全員に子供についての悩みや心配事を相談する相手がいるかどうか聞いたところ、「いないので欲しい」の割合は、父が4.4%、母は2.9%となっている。

また、「いないので欲しい」と回答した父母（186人）に、誰に相談したいか聞いたところ、父は、「配偶者」の割合が43.1%で最も高く、次いで、「友人」が38.2%、「保育所や幼稚園、学校等の先生」が29.4%となっている。

一方、母は、「保育所や幼稚園、学校等の先生」の割合が36.9%で最も高く、次いで「友人」が34.5%、「配偶者」が33.3%となっている。（図Ⅲ-3-5）

図Ⅲ-3-5 相談相手の有無及び誰に相談したいか〔複数回答〕



5 相談窓口の利用の有無及び利用したことがない理由

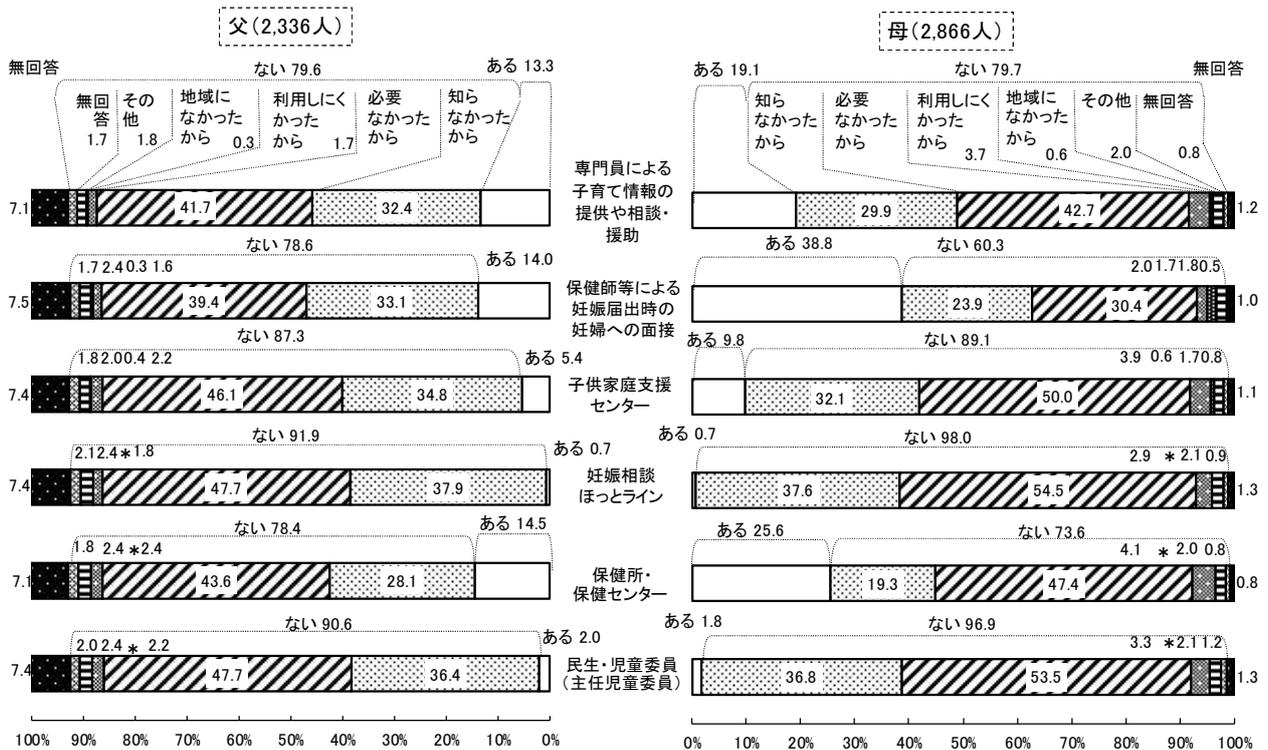
(1) 妊娠期における相談窓口の利用の有無及び利用したことがない理由

「保健師等による妊娠届出時の妊婦への面接」を「利用したことがある」割合は、母は約4割

母が子を妊娠しているときの相談窓口の利用の有無及び利用したことがない理由を聞いたところ、父は「保健所・保健センターを利用したことがある」が14.5%と最も高く、次いで「保健師等による妊娠届出時の妊婦への面接を利用したことがある」が14.0%となっている。

母は「保健師等による妊娠届出時の妊婦への面接を利用したことがある」が38.8%と最も高く、次いで、「保健所・保健センターを利用したことがある」が25.6%となっている。(図Ⅲ-3-6)

図Ⅲ-3-6 妊娠期における相談窓口の利用の有無及び利用したことがない理由



(注) * 「妊娠相談ほっとライン」・「保健所・保健センター」・「民生・児童委員(主任児童委員)」は「地域になかったから」という選択肢を設けていない。

(2) 妊娠期における相談窓口の利用の有無及び利用したことがない理由—地域別

「利用したことがある」割合は、「子供家庭支援センター」は市・町・村部の方が、「保健所・保健センター」は区部の方が、それぞれ高い

母が子を妊娠しているときの相談窓口の利用の有無及び利用したことがない理由を地域別にみると、「子供家庭支援センター」を「利用したことがある」割合は、区部が7.1%、市・町・村部が9.7%で、市・町・村部の方が高くなっている。また、「利用したことがない」理由が、「知らなかったから」の割合は、区部が34.6%、市・町・村部は29.8%で、区部の方が高くなっている。

一方、「保健所・保健センター」を「利用したことがある」割合は、区部が21.2%、市・町・村部が19.1%で、区部の方が高くなっている。(表Ⅲ-3-11)

表Ⅲ-3-11 妊娠期における相談窓口の利用の有無及び利用したことがない理由—地域別

	専門員による子育て情報の提供や相談・援助										保健師等による妊娠届出時の妊婦への面接									
	総数	利用したことがある	利用したことがない	知らなかったから	必要ななかったから	利用しにくかったから	地域になかったから	その他	無回答	無回答	総数	利用したことがある	利用したことがない	知らなかったから	必要ななかったから	利用しにくかったから	地域になかったから	その他	無回答	無回答
総数	100.0 (5,202)	16.5	79.6	31.0	42.3	2.8	0.5	1.9	1.2	3.8	100.0 (5,202)	27.6	68.5	28.0	34.4	1.8	1.1	2.1	1.0	3.9
区部	100.0 (3,793)	16.2	79.6	31.9	41.6	2.9	0.3	1.8	1.1	4.2	100.0 (3,793)	27.6	68.2	28.3	33.8	2.0	1.0	2.2	0.9	4.2
区中央部	100.0 (268)	16.4	81.0	33.2	41.0	3.0	0.7	1.1	1.9	2.6	100.0 (268)	28.4	68.7	27.6	35.1	2.2	1.5	1.1	1.1	3.0
区南部	100.0 (389)	17.7	79.2	34.4	40.1	2.3	-	1.0	1.3	3.1	100.0 (389)	26.2	70.7	33.2	31.4	2.1	1.3	1.5	1.3	3.1
区西南部	100.0 (557)	18.5	78.3	30.2	40.8	3.8	0.5	2.5	0.5	3.2	100.0 (557)	28.7	68.0	26.6	34.6	2.7	0.7	3.1	0.4	3.2
区西部	100.0 (592)	17.6	76.9	25.5	45.9	2.9	-	2.2	0.3	5.6	100.0 (592)	31.8	63.0	22.1	34.5	1.5	1.7	3.0	0.2	5.2
区西北部	100.0 (851)	16.0	79.0	31.0	41.5	2.2	0.4	2.2	1.6	5.1	100.0 (851)	27.3	67.3	28.2	33.0	2.0	0.6	2.0	1.5	5.4
区東北部	100.0 (555)	11.5	83.2	37.5	39.8	3.1	0.2	1.6	1.1	5.2	100.0 (555)	22.3	72.8	33.0	35.0	0.9	1.3	2.0	0.7	4.9
区東部	100.0 (581)	16.2	80.9	33.7	41.3	3.1	0.5	1.2	1.0	2.9	100.0 (581)	28.6	68.7	29.1	33.4	2.6	0.7	1.9	1.0	2.8
市・町・村部	100.0 (1,409)	17.4	79.7	28.7	43.9	2.6	0.9	2.0	1.6	2.9	100.0 (1,409)	27.6	69.2	27.2	36.1	1.5	1.1	1.8	1.4	3.2
西多摩	100.0 (90)	13.3	84.4	32.2	46.7	2.2	1.1	2.2	-	2.2	100.0 (90)	28.9	68.9	31.1	33.3	0.0	2.2	2.2	-	2.2
南多摩	100.0 (426)	16.0	82.4	32.6	43.9	2.3	0.2	1.4	1.9	1.6	100.0 (426)	26.8	71.1	30.3	34.5	1.6	1.4	1.4	1.9	2.1
北多摩西部	100.0 (126)	11.9	84.9	29.4	46.8	4.8	-	1.6	2.4	3.2	100.0 (126)	20.6	76.2	28.6	39.7	4.0	-	1.6	2.4	3.2
北多摩南部	100.0 (419)	19.8	76.1	27.2	40.8	2.1	1.0	3.3	1.7	4.1	100.0 (419)	31.3	64.4	25.5	33.2	0.7	1.2	2.9	1.0	4.3
北多摩北部	100.0 (348)	19.3	77.6	24.7	46.0	2.6	1.7	1.1	1.4	3.2	100.0 (348)	26.4	70.1	23.9	41.1	1.7	0.9	1.1	1.4	3.4

表Ⅲ-3-11 妊娠期における相談窓口の利用の有無及び利用したことがない理由—地域別（続き）

	子供家庭支援センター										妊娠相談ほっとライン ※								
	総数	利用したことがある	利用したことがない	知らなかったから	必要なかったから	利用しにくかったから	地域になかったから	その他	無回答	無回答	総数	利用したことがある	利用したことがない	知らなかったから	必要なかったから	利用しにくかったから	その他	無回答	無回答
総数	100.0 (5,202)	7.8 (269)	88.3	33.3	48.3	3.1	0.5	1.8	1.3	3.9	100.0 (5,202)	0.7	95.3	37.7	51.5	2.4	2.2	1.4	4.0
区部	100.0 (3,793)	7.1	88.8	34.6	47.6	3.2	0.5	1.7	1.2	4.1	100.0 (3,793)	0.8	94.9	38.2	50.6	2.7	2.2	1.2	4.3
区中央部	100.0 (268)	7.5	89.9	34.7	48.9	3.0	0.7	0.7	1.9	2.6	100.0 (268)	0.7	96.6	37.3	53.0	3.0	1.5	1.9	2.6
区南部	100.0 (389)	4.6	92.3	37.8	48.8	2.8	0.5	0.8	1.5	3.1	100.0 (389)	0.3	96.7	41.4	50.6	2.1	1.3	1.3	3.1
区西南部	100.0 (557)	6.3	90.1	31.6	49.6	5.0	0.7	2.7	0.5	3.6	100.0 (557)	0.5	96.1	33.9	54.0	3.6	3.6	0.9	3.4
区西部	100.0 (592)	7.4	87.3	29.6	52.2	3.0	0.3	2.0	0.2	5.2	100.0 (592)	1.2	93.2	32.6	55.7	1.9	2.4	0.7	5.6
区西北部	100.0 (851)	10.1	84.7	32.7	44.7	2.9	0.5	2.0	2.0	5.2	100.0 (851)	1.1	93.3	38.4	48.1	2.7	2.4	1.8	5.6
区東北部	100.0 (555)	4.7	90.5	40.7	44.3	2.5	0.2	1.6	1.1	4.9	100.0 (555)	0.9	94.2	42.3	46.5	2.5	1.8	1.1	4.9
区東部	100.0 (581)	6.9	90.4	37.3	47.0	3.3	0.5	1.2	1.0	2.8	100.0 (581)	0.3	96.7	42.0	48.9	3.1	1.5	1.2	2.9
市・町・村部	100.0 (1,409)	9.7	86.9	29.8	50.0	2.8	0.6	2.1	1.6	3.3	100.0 (1,409)	0.6	96.1	36.4	53.7	1.8	2.4	1.8	3.3
西多摩	100.0 (90)	12.2	85.6	31.1	47.8	3.3	-	3.3	-	2.2	100.0 (90)	1.1	96.7	42.2	50.0	1.1	2.2	1.1	2.2
南多摩	100.0 (426)	9.2	88.7	29.8	52.3	2.6	0.2	1.6	2.1	2.1	100.0 (426)	0.5	97.2	38.5	54.0	1.2	1.2	2.3	2.3
北多摩西部	100.0 (126)	7.9	88.9	27.8	51.6	5.6	-	1.6	2.4	3.2	100.0 (126)	-	96.8	32.5	54.8	4.0	2.4	3.2	3.2
北多摩南部	100.0 (419)	10.5	85.2	31.0	46.3	2.4	1.2	3.1	1.2	4.3	100.0 (419)	1.0	94.7	37.2	49.9	1.4	4.8	1.4	4.3
北多摩北部	100.0 (348)	9.5	86.5	28.7	51.7	2.3	0.9	1.1	1.7	4.0	100.0 (348)	0.6	96.0	32.8	58.3	2.3	1.1	1.4	3.4

	保健所・保健センター ※										民生・児童委員（主任児童委員） ※							
	総数	利用したことがある	利用したことがない	知らなかったから	必要なかったから	利用しにくかったから	その他	無回答	無回答	総数	利用したことがある	利用したことがない	知らなかったから	必要なかったから	利用しにくかったから	その他	無回答	無回答
総数	100.0 (5,202)	20.6	75.7	23.3	45.7	3.3	2.2	1.3	3.7	100.0 (5,202)	1.9	94.1	36.6	50.9	2.8	2.2	1.5	4.0
区部	100.0 (3,793)	21.2	74.9	24.1	44.1	3.5	2.1	1.1	3.9	100.0 (3,793)	1.9	93.8	38.1	49.4	2.8	2.2	1.3	4.3
区中央部	100.0 (268)	22.0	75.0	23.9	42.9	4.9	1.9	1.5	3.0	100.0 (268)	1.1	96.3	38.4	51.9	3.0	1.5	1.5	2.6
区南部	100.0 (389)	20.8	76.3	26.5	43.7	3.6	1.3	1.3	2.8	100.0 (389)	1.3	95.6	42.2	49.1	1.8	1.3	1.3	3.1
区西南部	100.0 (557)	14.9	81.9	23.5	50.8	3.8	3.1	0.7	3.2	100.0 (557)	2.2	94.3	34.3	52.1	3.8	3.4	0.7	3.6
区西部	100.0 (592)	23.8	71.5	19.4	46.3	2.9	2.2	0.7	4.7	100.0 (592)	2.4	91.9	33.3	53.5	2.4	2.2	0.5	5.7
区西北部	100.0 (851)	21.5	73.2	22.3	43.0	4.1	2.0	1.8	5.3	100.0 (851)	2.4	92.2	36.9	47.7	3.1	2.2	2.4	5.4
区東北部	100.0 (555)	22.9	72.6	27.2	40.4	2.2	2.0	0.9	4.5	100.0 (555)	1.1	94.1	42.9	45.4	2.3	2.3	1.1	4.9
区東部	100.0 (581)	22.2	75.4	27.4	41.7	3.8	1.7	0.9	2.4	100.0 (581)	2.1	95.0	41.1	47.7	3.1	1.7	1.4	2.9
市・町・村部	100.0 (1,409)	19.1	77.9	21.1	49.8	2.8	2.5	1.7	3.0	100.0 (1,409)	1.9	94.7	32.6	54.9	2.8	2.3	2.1	3.3
西多摩	100.0 (90)	34.4	63.3	17.8	37.8	3.3	3.3	1.1	2.2	100.0 (90)	1.1	96.7	40.0	52.2	1.1	3.3	-	2.2
南多摩	100.0 (426)	19.0	79.1	21.8	50.5	2.6	2.1	2.1	1.9	100.0 (426)	1.4	96.0	35.7	53.8	1.6	1.9	3.1	2.6
北多摩西部	100.0 (126)	19.8	77.0	19.0	47.6	7.1	0.8	2.4	3.2	100.0 (126)	3.2	93.7	33.3	52.4	4.8	0.8	2.4	3.2
北多摩南部	100.0 (419)	18.4	77.8	22.4	47.7	2.1	4.1	1.4	3.8	100.0 (419)	1.7	94.0	31.0	54.2	3.3	3.8	1.7	4.3
北多摩北部	100.0 (348)	15.8	80.7	20.1	55.5	2.3	1.4	1.4	3.4	100.0 (348)	2.6	94.0	28.4	58.9	3.4	1.1	2.0	3.4

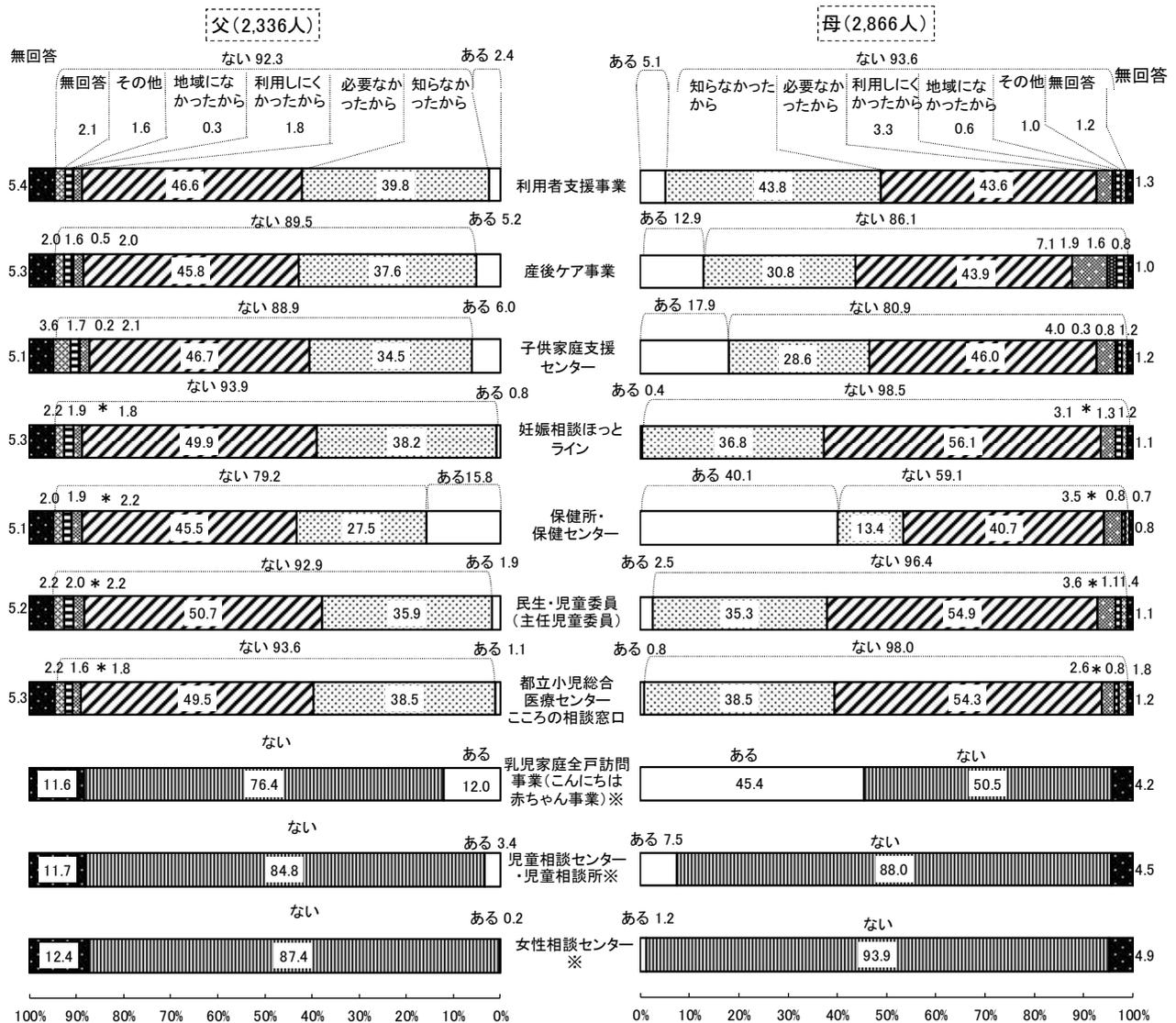
(注) ※「妊娠相談ほっとライン」・「保健所・保健センター」・「民生・児童委員（主任児童委員）」は「地域になかったから」という選択肢を設けていない。

(3) 子育て期における相談窓口の利用の有無及び利用したことがない理由

「乳児家庭全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん事業）」を「利用したことがある」割合は、母が4割超

子育て期における相談窓口の利用の有無及び利用したことがない理由を聞いたところ、「乳児家庭全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん事業）」を「利用したことがある」割合は父が12.0%、母が45.4%となっている。（図Ⅲ-3-7）

図Ⅲ-3-7 子育て期における相談窓口の利用の有無及び利用したことがない理由



(注) * 「保健所・保健センター」・「民生・児童委員 (主任児童委員)」・「都立小児総合医療センター ところの相談窓口」は「地域になかったから」という選択肢を設けていない。

(注) ※ 「乳児家庭全戸訪問事業 (こんにちは赤ちゃん事業)」・「児童相談センター・児童相談所」・「女性相談センター」については、「利用の有無」のみを尋ね、「利用したことがない理由」は聞いていない。

(4) 子育て期における相談窓口の利用の有無及び利用したことがない理由—地域別

「子育てひろば（保育所・児童館等）」を「利用したことがある」割合は、区部の方が、市・町・村部よりも高い

子育て期における相談窓口の利用の有無及び利用したことがない理由を地域別にみると、「子供家庭支援センター」を「利用したことがある」割合は、区部が 11.0%、市・町・村部は 16.6%で、市・町・村部の方が高くなっている。

一方、「保健所・保健センター」を「利用したことがある」割合は、区部が 30.1%、市・町・村部が 26.8%で、区部の方が高くなっている。(表Ⅲ-3-12)

表Ⅲ-3-12 子育て期における相談窓口の利用の有無及び利用したことがない理由—地域別

	利用者支援事業										産後ケア事業									
	総数	利用したことがある	利用したことがない	知らなかったから	必要なかったから	利用しにくかったから	地域になかったから	その他	無回答	無回答	総数	利用したことがある	利用したことがない	知らなかったから	必要なかったから	利用しにくかったから	地域になかったから	その他	無回答	無回答
総数	100.0 (5,202)	3.9	93.0	42.0	45.0	2.7	0.4	1.3	1.6	3.1	100.0 (5,202)	9.5	87.6	33.9	44.8	4.8	1.2	1.6	1.3	2.9
区部	100.0 (3,793)	4.2	92.6	42.8	43.7	2.9	0.4	1.1	1.6	3.2	100.0 (3,793)	10.3	86.7	33.9	43.4	5.3	1.2	1.6	1.2	3.0
区中央部	100.0 (268)	4.9	93.3	41.0	44.8	3.0	0.7	0.4	3.4	1.9	100.0 (268)	9.3	89.2	34.3	44.4	6.0	0.7	0.7	3.0	1.5
区南部	100.0 (389)	3.6	94.9	48.1	40.9	2.3	0.3	0.3	3.1	1.5	100.0 (389)	7.2	91.3	40.9	40.4	6.2	1.0	0.8	2.1	1.5
区西南部	100.0 (557)	5.9	91.2	39.9	44.0	3.8	0.7	1.6	1.3	2.9	100.0 (557)	14.4	82.9	28.4	44.0	5.6	2.2	2.2	0.7	2.7
区西部	100.0 (592)	4.9	90.0	34.3	50.2	2.9	0.3	1.4	1.0	5.1	100.0 (592)	14.0	81.6	25.0	47.8	5.6	1.2	1.7	0.3	4.4
区西北部	100.0 (851)	4.1	91.9	41.7	42.8	3.8	0.5	1.6	1.5	4.0	100.0 (851)	9.8	86.4	33.4	43.1	6.0	0.7	1.8	1.4	3.9
区東北部	100.0 (555)	2.9	94.2	50.8	40.2	1.4	-	0.7	1.1	2.9	100.0 (555)	8.8	88.3	41.3	40.4	2.7	1.6	1.6	0.7	2.9
区東部	100.0 (581)	3.4	94.1	45.4	42.9	2.6	0.7	1.0	1.5	2.4	100.0 (581)	7.6	90.0	37.2	43.4	5.5	1.2	1.4	1.4	2.4
市・町・村部	100.0 (1,409)	3.0	94.0	39.9	48.4	2.0	0.4	1.7	1.6	3.0	100.0 (1,409)	7.1	90.2	33.9	48.4	3.4	1.3	1.6	1.6	2.7
西多摩	100.0 (90)	3.3	94.4	42.2	50.0	-	-	2.2	-	2.2	100.0 (90)	5.6	92.2	35.6	50.0	2.2	1.1	3.3	-	2.2
南多摩	100.0 (426)	1.4	95.3	42.5	48.1	1.2	0.5	1.6	1.4	3.3	100.0 (426)	6.1	91.5	34.7	48.4	3.3	2.1	1.4	1.6	2.3
北多摩西部	100.0 (126)	3.2	94.4	37.3	45.2	5.6	0.8	2.4	3.2	2.4	100.0 (126)	7.9	89.7	34.1	46.8	4.8	0.8	0.8	2.4	2.4
北多摩南部	100.0 (419)	3.8	93.1	40.1	46.3	1.9	0.5	2.4	1.9	3.1	100.0 (419)	8.4	88.8	33.2	46.3	4.3	1.0	2.4	1.7	2.9
北多摩北部	100.0 (348)	3.7	93.4	36.8	52.0	2.3	0.3	0.6	1.4	2.9	100.0 (348)	6.9	89.9	33.0	51.1	2.3	0.9	0.9	1.7	3.2

表Ⅲ-3-12 子育て期における相談窓口の利用の有無及び利用したことがない理由—地域別（続き）

	子供家庭支援センター										妊娠相談ほっとライン ※1								
	総数	利用したことがある	利用したことがない	知らなかったから	必要なかったから	利用しにくかったから	地域になかったから	その他	無回答	無回答	総数	利用したことがある	利用したことがない	知らなかったから	必要なかったから	利用しにくかったから	その他	無回答	無回答
総数	100.0 (5,202)	12.5	84.5	31.3	46.3	3.1	0.3	1.2	2.3	2.9	100.0 (5,202)	0.6	96.4	37.4	53.3	2.5	1.5	1.6	3.0
区部	100.0 (3,793)	11.0	85.8	33.1	45.8	3.3	0.3	1.1	2.1	3.2	100.0 (3,793)	0.6	96.3	38.3	52.5	2.6	1.4	1.6	3.1
区中央部	100.0 (268)	11.6	86.2	30.6	46.3	4.1	0.4	0.7	4.1	2.2	100.0 (268)	1.1	97.4	34.3	54.5	3.4	1.1	4.1	1.5
区南部	100.0 (389)	6.4	92.0	40.9	44.0	3.3	0.3	0.3	3.3	1.5	100.0 (389)	0.5	97.9	43.2	49.6	2.1	0.5	2.6	1.5
区西南部	100.0 (557)	8.6	88.2	34.5	46.0	4.3	-	1.4	2.0	3.2	100.0 (557)	0.4	96.9	39.0	51.9	2.7	2.0	1.4	2.7
区西部	100.0 (592)	9.8	85.1	28.2	51.2	3.4	0.2	0.8	1.4	5.1	100.0 (592)	0.7	94.6	31.8	58.6	2.2	1.2	0.8	4.7
区西北部	100.0 (851)	15.7	81.0	29.4	43.5	3.5	0.6	1.5	2.5	3.3	100.0 (851)	0.7	95.4	38.3	50.8	3.2	1.6	1.5	3.9
区東北部	100.0 (555)	8.5	88.5	37.8	46.3	2.0	-	0.9	1.4	3.1	100.0 (555)	0.5	96.4	41.8	50.6	2.2	0.9	0.9	3.1
区東部	100.0 (581)	12.9	84.5	33.7	44.2	3.1	0.7	1.2	1.5	2.6	100.0 (581)	0.3	97.2	39.2	52.2	2.8	1.9	1.2	2.4
市・町・村部	100.0 (1,409)	16.6	81.1	26.3	47.5	2.6	0.2	1.6	2.8	2.3	100.0 (1,409)	0.6	96.7	35.3	55.5	2.2	1.9	1.8	2.6
西多摩	100.0 (90)	14.4	83.3	30.0	45.6	1.1	-	3.3	3.3	2.2	100.0 (90)	1.1	96.7	37.8	53.3	2.2	2.2	1.1	2.2
南多摩	100.0 (426)	20.9	77.2	24.6	44.8	2.3	0.2	1.4	3.8	1.9	100.0 (426)	0.7	97.7	36.9	55.4	1.6	2.1	1.6	1.6
北多摩西部	100.0 (126)	12.7	84.9	25.4	46.8	5.6	-	1.6	5.6	2.4	100.0 (126)	0.8	96.8	31.7	55.6	4.8	1.6	3.2	2.4
北多摩南部	100.0 (419)	15.8	81.9	27.0	47.3	2.6	0.5	2.1	2.4	2.4	100.0 (419)	0.7	96.2	36.3	53.2	1.9	2.9	1.9	3.1
北多摩北部	100.0 (348)	14.4	82.8	27.0	51.7	2.0	-	0.9	1.1	2.9	100.0 (348)	0.3	96.3	32.8	58.9	2.3	0.6	1.7	3.4

	保健所・保健センター ※1										民生・児童委員（主任児童委員） ※1							
	総数	利用したことがある	利用したことがない	知らなかったから	必要なかったから	利用しにくかったから	その他	無回答	無回答	総数	利用したことがある	利用したことがない	知らなかったから	必要なかったから	利用しにくかったから	その他	無回答	無回答
総数	100.0 (5,202)	29.2	68.1	19.7	42.8	2.9	1.3	1.3	2.7	100.0 (5,202)	2.2	94.8	35.6	53.0	3.0	1.5	1.8	2.9
区部	100.0 (3,793)	30.1	67.1	20.6	41.2	2.9	1.1	1.2	2.9	100.0 (3,793)	2.3	94.7	36.9	51.8	3.0	1.4	1.7	3.0
区中央部	100.0 (268)	34.3	63.8	17.5	39.2	3.0	0.7	3.4	1.9	100.0 (268)	0.4	97.8	34.3	55.6	3.4	1.1	3.4	1.9
区南部	100.0 (389)	27.8	71.0	26.7	38.8	2.8	0.8	1.8	1.3	100.0 (389)	1.8	96.7	42.4	49.6	1.5	0.5	2.6	1.5
区西南部	100.0 (557)	21.4	75.9	22.3	47.8	3.2	1.3	1.4	2.7	100.0 (557)	2.0	95.5	37.7	50.8	3.4	1.8	1.8	2.5
区西部	100.0 (592)	29.6	66.4	18.4	43.8	2.4	1.2	0.7	4.1	100.0 (592)	2.7	92.7	30.2	57.6	3.0	1.4	0.5	4.6
区西北部	100.0 (851)	30.4	65.6	19.9	39.8	3.3	1.3	1.3	4.0	100.0 (851)	2.8	93.3	35.6	50.4	3.9	1.5	1.9	3.9
区東北部	100.0 (555)	35.1	62.2	21.6	37.3	2.3	0.5	0.4	2.7	100.0 (555)	2.0	95.0	41.1	50.1	1.8	1.1	0.9	3.1
区東部	100.0 (581)	33.0	65.1	18.6	40.4	3.3	1.7	1.0	1.9	100.0 (581)	2.8	95.0	38.0	49.9	3.3	1.7	2.1	2.2
市・町・村部	100.0 (1,409)	26.8	70.9	17.4	47.3	2.9	1.7	1.6	2.3	100.0 (1,409)	2.2	95.2	32.2	56.4	2.8	1.8	1.9	2.6
西多摩	100.0 (90)	43.3	54.4	11.1	36.7	4.4	2.2	-	2.2	100.0 (90)	2.2	95.6	34.4	54.4	2.2	2.2	2.2	2.2
南多摩	100.0 (426)	30.5	67.8	16.4	46.7	1.6	1.6	1.4	1.6	100.0 (426)	1.9	96.2	34.7	56.8	0.9	1.9	1.9	1.9
北多摩西部	100.0 (126)	22.2	76.2	19.8	45.2	7.1	0.8	3.2	1.6	100.0 (126)	4.0	93.7	32.5	50.8	5.6	0.8	4.0	2.4
北多摩南部	100.0 (419)	26.7	70.6	17.9	45.8	2.9	2.4	1.7	2.6	100.0 (419)	1.7	95.2	31.7	55.6	3.6	2.6	1.7	3.1
北多摩北部	100.0 (348)	19.5	77.3	18.7	53.4	2.6	1.1	1.4	3.2	100.0 (348)	2.6	94.3	29.0	59.5	3.4	0.9	1.4	3.2

表Ⅲ-3-12 子育て期における相談窓口の利用の有無及び利用したことがない理由―地域別（続き）

	都立小児総合医療センターこころの相談窓口※1									乳児家庭全戸訪問事業※2 (こんにちは赤ちゃん事業)				児童相談センター・児童相談所 ※2				女性相談センター※2			
	総数	利用したことがある	利用したことがない	知らなかったから	必要なかったから	利用しにくかったから	その他	無回答	無回答	総数	利用したことがある	利用したことがない	無回答	総数	利用したことがある	利用したことがない	無回答	総数	利用したことがある	利用したことがない	無回答
総数	100.0 (5,202)	1.0	96.0	38.5	52.1	2.2	1.2	2.0	3.0	100.0 (5,202)	30.4	62.1	7.5	100.0 (5,202)	5.7	86.6	7.7	100.0 (5,202)	0.8	90.9	8.3
区部	100.0 (3,793)	0.9	95.9	39.3	51.4	2.3	1.1	1.9	3.2	100.0 (3,793)	29.9	62.6	7.5	100.0 (3,793)	5.7	86.5	7.8	100.0 (3,793)	0.7	90.9	8.4
区中央部	100.0 (268)	1.1	96.6	36.2	53.7	2.6	0.4	3.7	2.2	100.0 (268)	30.2	66.0	3.7	100.0 (268)	5.2	90.7	4.1	100.0 (268)	-	95.9	4.1
区南部	100.0 (389)	0.5	97.4	42.4	49.9	1.8	0.5	2.8	2.1	100.0 (389)	26.2	66.6	7.2	100.0 (389)	7.5	85.3	7.2	100.0 (389)	-	92.5	7.5
区西南部	100.0 (557)	0.7	96.8	37.2	54.0	2.5	1.6	1.4	2.5	100.0 (557)	25.0	67.5	7.5	100.0 (557)	4.8	87.6	7.5	100.0 (557)	0.9	91.2	7.9
区西部	100.0 (592)	0.7	94.9	32.9	58.3	1.9	0.8	1.0	4.4	100.0 (592)	31.6	58.4	10.0	100.0 (592)	5.4	84.3	10.3	100.0 (592)	0.8	88.7	10.5
区西北部	100.0 (851)	0.8	95.1	39.4	49.5	2.7	1.4	2.1	4.1	100.0 (851)	33.1	58.6	8.2	100.0 (851)	5.5	85.1	9.4	100.0 (851)	0.7	88.8	10.5
区東北部	100.0 (555)	0.9	95.9	44.9	47.9	1.3	0.7	1.1	3.2	100.0 (555)	37.7	56.4	5.9	100.0 (555)	5.2	88.1	6.7	100.0 (555)	0.7	91.9	7.4
区東部	100.0 (581)	1.4	96.2	41.8	47.8	2.9	1.2	2.4	2.4	100.0 (581)	23.4	69.5	7.1	100.0 (581)	6.5	86.9	6.5	100.0 (581)	1.4	91.4	7.2
市・町・村部	100.0 (1,409)	1.2	96.2	36.3	54.1	2.1	1.6	2.1	2.6	100.0 (1,409)	31.5	60.8	7.7	100.0 (1,409)	5.7	86.9	7.5	100.0 (1,409)	0.9	91.1	8.0
西多摩	100.0 (90)	1.1	96.7	42.2	51.1	1.1	2.2	-	2.2	100.0 (90)	27.8	64.4	7.8	100.0 (90)	3.3	91.1	5.6	100.0 (90)	-	93.3	6.7
南多摩	100.0 (426)	0.7	97.7	38.7	53.3	1.6	1.9	2.1	1.6	100.0 (426)	32.6	59.4	8.0	100.0 (426)	6.6	85.7	7.7	100.0 (426)	0.7	90.4	8.9
北多摩西部	100.0 (126)	1.6	95.2	34.1	51.6	4.0	0.8	4.8	3.2	100.0 (126)	22.2	71.4	6.3	100.0 (126)	4.0	88.9	7.1	100.0 (126)	0.8	91.3	7.9
北多摩南部	100.0 (419)	1.2	95.7	35.8	53.5	2.1	2.1	2.1	3.1	100.0 (419)	35.6	56.6	7.9	100.0 (419)	4.3	88.1	7.6	100.0 (419)	0.7	91.6	7.6
北多摩北部	100.0 (348)	1.7	95.1	33.3	57.5	2.3	0.6	1.4	3.2	100.0 (348)	29.6	62.9	7.5	100.0 (348)	7.5	85.1	7.5	100.0 (348)	1.4	90.8	7.8

(注) ※1「妊娠相談ほっとライン」「保健所・保健センター」・「民生・児童委員(主任児童委員)」・「都立小児総合医療センターこころの相談窓口」は「地域になかったから」という選択肢を設けていない。

(注) ※2「乳児家庭全戸訪問事業(こんにちは赤ちゃん事業)」・「児童相談センター・児童相談所」・「女性相談センター」については、利用の有無のみを尋ね、利用したことがない理由は聞いていない。